

第2章 統計

第1節 実績の概要

第1項 産科部門診療実績

産科部門については、県内全ての分娩取扱医療機関（病院、診療所、助産所）に周産期情報の提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は10病院、14診療所、7助産所となっている。

本調査による本年の総分娩数は8,133例であった。うち病院が3,201例で39.3%、診療所が4,748例で58.3%、助産所が184例で2.3%となっている。全国の傾向と同様に県内でも分娩数は減少している。

早産と定義される37週未満の分娩は403例で全体の5.0%となっている。また低出生体重児は643例で7.9%となっている。診療所でも192例（全低出生体重児のうちの29.8%）の低出生体重児を扱っている。高年出産とされる35歳以上での出産は2,291例あり、全体の28.1%となっている。

合併症妊娠では糖尿病（含GDM）が最も多く232例となっている。産科合併症は弛緩出血が553例で最も多い（表33）。

表33 2022年産科部門診療実績

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	692	689	117	334	1,369	4,748	184	8,133
	経膈分娩	425	403	62	256	970	3,830	184	6,130
	帝王切開	267	286	55	78	399	918	-	2,003
	うち予定	126	157	33	51	253	475	-	1,095
	うち緊急	141	129	22	27	146	443	-	908
	帝王切開率(%)	38.6%	41.5%	47.0%	23.4%	29.1%	19.3%	-	
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	67	47	-	-	-	3	-	117
	35週	20	27	4	3	8	12	-	74
	36週	25	45	2	9	45	86	-	212
	37週	120	107	10	33	183	395	4	852
	38週	195	162	36	75	330	1,050	30	1,878
	39週	149	140	27	101	385	1,475	76	2,353
	40週	118	145	22	81	338	1,313	61	2,078
	41週	33	45	16	34	81	401	13	623
	42週以上	-	-	-	-	1	6	-	7
不明	-	-	-	-	1	-	-	1	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	35	8	-	-	-	-	-	43
	1,500-1,999g	27	35	2	2	5	5	-	76
	2,000-2,499g	100	104	11	23	93	187	6	524
	2,500g以上	565	571	104	311	1,274	4,549	178	7,552
出産時年齢	35歳未満	426	387	60	237	975	3,637	120	5,842
	35-39歳	186	207	37	70	311	918	58	1,787
	40-44歳	76	90	18	27	80	189	6	486
	45歳以上	4	5	2	-	3	4	-	18

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
合併症妊娠	子宮筋腫	51	47	8	15	37	70	2	230
	子宮筋腫（核出術後）	18	13	2	7	12	14	-	66
	卵巣嚢腫（腫瘍）	28	13	1	6	21	23	-	92
	子宮頸癌（含円錐切除後）	10	17	-	-	17	11	-	55
	子宮形態異常	1	1	-	-	3	9	-	14
	甲状腺機能亢進症	8	7	6	2	4	13	-	40
	甲状腺機能低下症	32	35	2	4	16	61	-	150
	糖尿病（含GDM）	63	59	7	26	45	32	-	232
	喘息	30	10	1	21	14	82	-	158
	慢性腎炎	2	6	-	-	2	-	-	10
	本態性高血圧	12	8	-	2	6	-	-	28
	特発性血小板減少性紫斑病（ITP）	2	2	-	-	-	-	-	4
	自己免疫疾患	21	8	-	1	2	1	-	33
	循環器疾患	12	2	-	4	6	3	-	27
	精神科疾患（含てんかん）	53	39	2	3	14	17	-	128
	ウイルス性肝炎（※1）	5	1	-	-	4	2	-	12
	消化器疾患（※2）	7	7	-	-	9	8	-	31
	その他	90	54	-	-	25	3	-	172
産科合併症 （重複あり）	切迫早産（※3）・前期破水（※4）	64	112	2	14	137	190	-	519
	妊娠高血圧症候群	83	54	10	12	40	83	-	282
	胎児発育不全	41	27	1	6	18	19	-	112
	多胎妊娠	35	36	2	3	12	1	-	89
	前置胎盤	11	16	-	-	-	1	-	28
	子癇	-	1	-	1	2	1	-	5
	弛緩出血（※5）	57	83	16	72	121	203	1	553
	常位胎盤早期剥離	6	4	1	2	3	9	-	25
	HELLP症候群	6	4	-	1	-	3	-	14
	低置胎盤	3	16	3	2	8	4	-	36
	血液型不適合	15	4	-	1	4	11	-	35
	羊水過多	5	6	-	-	-	9	-	20
	羊水過少	12	7	2	5	7	37	-	70
	先天異常	45	7	-	1	4	-	-	57
その他	4	45	-	-	-	-	1	50	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	8	4	-	1	10	6	-	29
	卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	7	-	-	10	11	-	31
	産道血腫除去術	4	-	-	-	2	4	-	10
	子宮動脈塞栓術	9	14	-	1	2	-	-	26
	子宮摘出術	-	-	-	-	-	-	-	-
	胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
	羊水除去	2	-	-	-	-	-	-	2
	その他	-	4	-	-	1	18	-	23
輸血治療症例	8	21	-	3	6	3	-	41	

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など／※3 入院のみ／※4 早産期／※5 羊水を含む出血量800ml以上、帝王切開1500ml以上

※ 参考

1 医療機関別特定妊婦数および未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち、市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。また未受診妊婦（受診回数3回以下、または最終受診日から3ヵ月以上の受診がない）についても集計した。

医療機関等において特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため、市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである（表34）。

表34 医療機関別特定妊婦および未受診妊婦数報告内訳

		奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よるづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	生駒 市立	診療所	助産所	計
2022年	特定妊婦数	22	25	-	5	9	4	-	-	1	-	39	-	105
	未受診妊婦数	2	9	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
	計	24	34	-	5	10	4	-	-	1	-	39	-	117
2021年	特定妊婦数	36	21	-	1	7	2	17	-	1	8	38	-	131
	未受診妊婦数	3	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	計	39	24	-	2	7	2	17	-	1	8	38	-	138
2020年	特定妊婦数	37	22	-	7	8	-	18	2	1	6	29	-	130
	未受診妊婦数	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	7
	計	38	25	-	8	8	-	18	2	1	7	30	-	137

※各医療機関において分娩を取り扱った患者が対象

<妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況>

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等を行い支援が必要となった妊婦の数および特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。妊娠届の遅滞は減少傾向にあるが要支援妊婦や特定妊婦数の減少は見られない（表35）。

表35 令和4年度妊娠の届出状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総数	妊娠届出数	9,445	8,901	8,411	8,160	7,748	7,339
	支援が必要となった妊婦の数	1,995	1,803	1,817	1,808	1,768	1,854
	特定妊婦数	203	209	218	177	174	184
満11週以内 (3ヶ月以内)	妊娠届出数	9,034	8,526	8,032	7,891	7,521	7,075
	支援が必要となった妊婦の数	1,830	1,650	1,634	1,673	1,638	1,710
	特定妊婦数	158	155	157	138	137	146
(第4月～第5月以 内)	妊娠届出数	302	268	275	188	173	181
	支援が必要となった妊婦の数	103	101	115	81	90	76
	特定妊婦数	24	32	31	19	25	11
(第6月～第7月以 内)	妊娠届出数	53	44	50	32	32	41
	支援が必要となった妊婦の数	37	29	33	27	25	36
	特定妊婦数	16	10	12	8	6	14
(第8月～分娩ま で)	妊娠届出数	16	17	21	18	10	22
	支援が必要となった妊婦の数	14	17	20	16	9	19
	特定妊婦数	3	9	13	9	4	11
分娩後	妊娠届出数	7	2	5	1	5	8
	支援が必要となった妊婦の数	6	2	5	1	4	7
	特定妊婦数	2	1	2	-	2	2
不詳	妊娠届出数	33	44	28	30	7	12
	支援が必要となった妊婦の数	5	4	10	10	2	6
	特定妊婦数	-	2	3	3	-	-

※支援が必要な妊婦：各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦

(県健康推進課調べ)

※特定妊婦：出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

第2項 新生児部門診療実績

新生児部門については、奈良医大、県総合、近大奈良および天理よろづからデータ集計を行った。

本調査による本年の新生児入院数は1,043例で、うち院内出生が905例、院外出生が138例であった。

入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、254例であった。人工呼吸器管理症例数は189例で全体の18.1%であった。早期新生児死亡は2例、後期新生児死亡は1例で、死亡症例の詳細は下表のとおり

である。新生児搬送収容症例数は146例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が97例と最も多い（表36、37）。

表36 2022年新生児部門診療実績

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	合計
入院数	院内出生	332	469	21	83	905
	院外出生	56	80	-	2	138
主病名	呼吸器疾患	56	130	35	33	254
	心・循環器疾患	25	7	1	1	34
	消化管疾患	21	11	6	2	40
	脳・神経疾患	8	9	1	-	18
	染色体異常 形態異常症候群	28	11	2	1	42
	感染症	52	60	3	13	128
	代謝内分泌	7	18	2	31	58
	その他	213	321	14	13	561
人工呼吸器管理症例	入院数	384	549	35	85	1,053
	人工呼吸器管理症例数	99	73	5	12	189
早期新生児死亡数		2	-	-	-	2
後期新生児死亡数		1	-	-	-	1
新生児搬送収容数		51	80	13	2	146
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	46	45	3	3	97
	心・循環器疾患	7	3	-	-	10
	消化管疾患	7	6	4	1	18
	脳・神経疾患	-	5	-	-	5
	染色体異常 形態異常症候群	4	5	2	-	11
	感染症	3	11	-	-	14
	その他	14	10	4	1	29

表37 2022年新生児部門死亡例一覧

医療機関	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	34週	500g未満	0-7日	食道閉鎖症C型 臍帯ヘルニア
	36週	1,500-1,749g	0-7日	18トリソミー
	30週	2,000-2,249g	8-28日	胎児水腫 ダウン症 一過性骨髄異形成症
	32週	2,250-2,499g	8-28日	低出生体重児 頭蓋内出血
	37週	2,500-2,749g	0-7日	急性循環不全

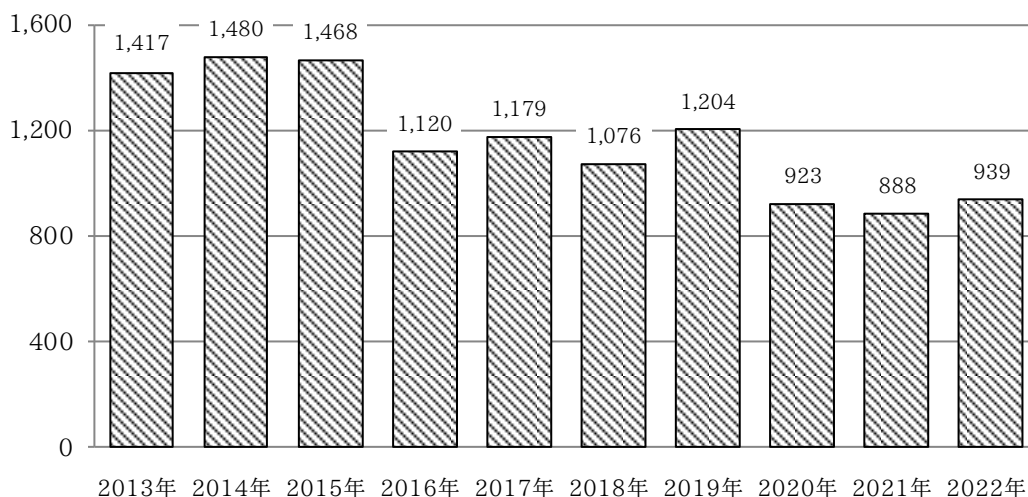
第2節 奈良県立医科大学附属病院

第1項 産科部門診療実績

1 入院数

本年産科病棟入院患者数は前年に比し増加した。

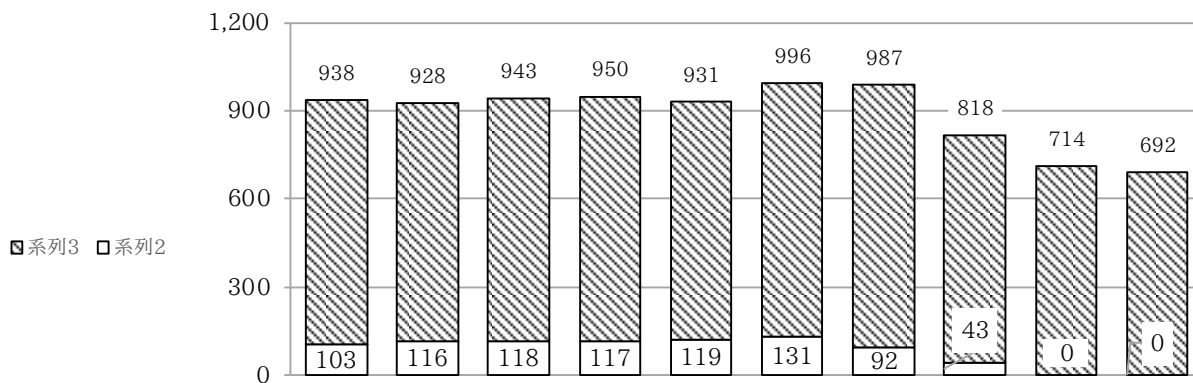
(例)



2 分娩数

本年も分娩数は減少した。

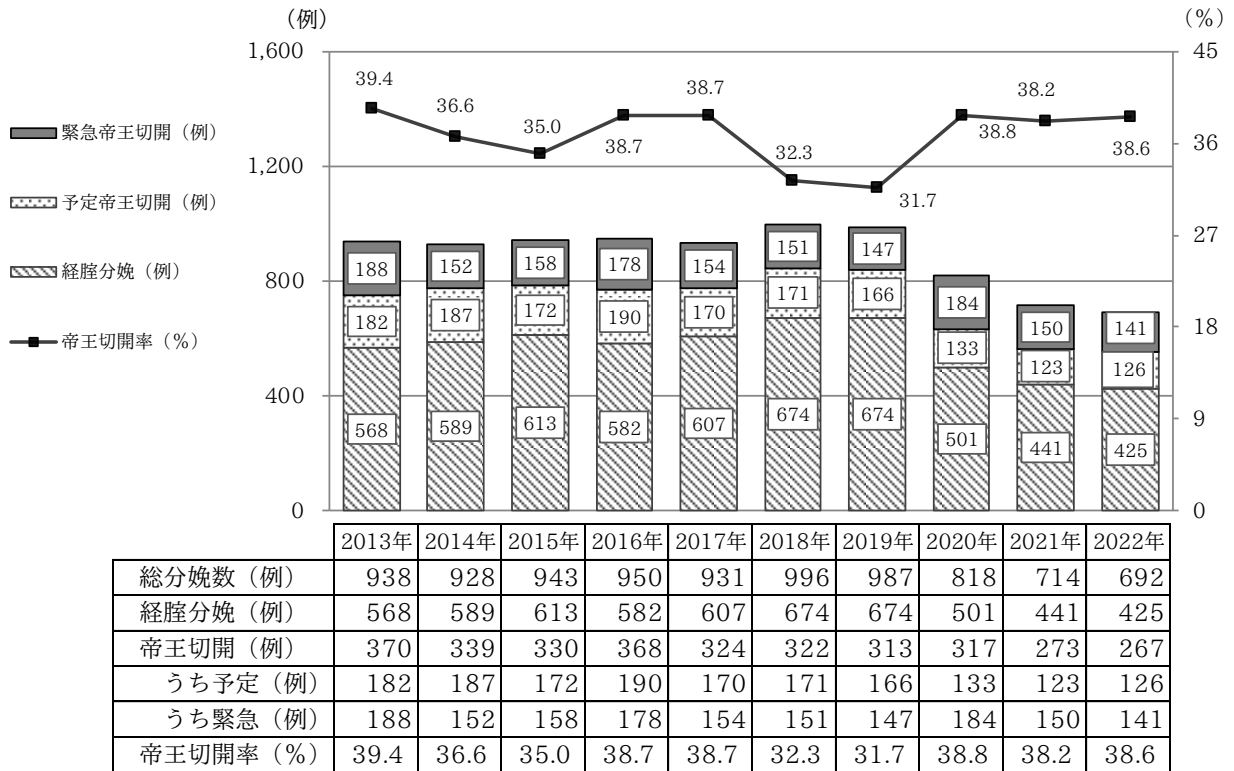
(例)



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総分娩数	938	928	943	950	931	996	987	818	714	692
うちメディカルパークセンター	103	116	118	117	119	131	92	43	0	0

3 分娩様式

総分娩数に対する帝王切開率は近年 30%台で著変なく経過している。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

本年は過期産の症例はなかった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
22週	-	2	3	1	2	1	1	-	-	1
23週	2	1	2	1	1	-	-	2	3	1
24週	2	3	5	2	4	2	1	-	1	5
25週	4	1	1	2	3	2	1	3	4	5
26週	1	5	2	3	4	4	1	2	1	2
27週	2	3	2	1	7	7	4	3	2	7
28週	5	4	8	4	1	3	-	5	3	5
29週	4	4	2	6	-	5	3	2	4	3
30週	3	3	4	3	5	9	7	8	4	4
31週	4	7	6	7	8	6	3	4	3	4
32週	16	7	9	8	11	8	8	13	11	3
33週	20	11	10	8	10	13	15	13	9	7
34週	22	8	10	21	20	17	32	25	13	20
35週	33	24	33	15	27	34	38	37	43	20
36週	54	41	77	62	46	56	62	43	41	25
37週	106	156	159	174	129	162	146	129	108	120
38週	246	208	209	225	221	243	246	209	205	195
39週	172	202	182	220	182	241	225	164	165	149
40週	183	168	203	177	182	175	181	133	96	118
41週	45	51	58	64	64	63	60	36	38	33
42週以上	-	-	4	1	2	-	-	-	3	-
不明	3	-	5	2	2	1	2	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

本年は超低出生体重児が27例と例年に比べ多く出生した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	-	5	7	3	9	3	2	-	2	1
500-999g	19	15	19	15	9	18	13	15	15	26
1,000-1,499g	27	25	13	20	20	17	13	23	9	8
1,500-1,999g	60	45	48	40	48	56	52	42	46	27
2,000-2,499g	165	136	137	135	143	141	145	147	131	100
2,500g以上	732	748	770	763	753	817	811	603	554	565
不明	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

6 出産時年齢（例）

本年の分娩妊婦のうち高年妊娠（35歳以上）は266例（38.4%）であり、前年と同程度であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	632	644	610	636	614	671	647	514	493	426
35-39歳	239	225	250	240	249	257	246	224	163	186
40-44歳	64	56	79	72	103	89	93	72	56	76
45歳以上	3	4	4	2	2	5	1	8	2	4

7 合併症妊娠（例）

例年に比し、子宮筋腫核出術後と自己免疫疾患が著明に増加した。

その他の内訳としては、凝固因子異常、子宮内膜症を多く認めた。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	69	52	49	36	67	67	59	45	73	51
子宮筋腫（核出術後）	16	6	5	-	-	4	9	3	5	18
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	22	25	25	20	4	22	13	23	28
子宮頸癌（含円錐切除後）	9	7	9	-	15	3	12	8	1	10
子宮形態異常	4	2	4	3	4	2	11	3	-	1
甲状腺機能亢進症	17	8	14	9	13	11	18	14	17	8
甲状腺機能低下症	11	17	14	17	35	31	41	23	34	32
糖尿病（含GDM）	39	45	54	62	67	62	87	74	72	63
喘息	49	19	25	28	19	14	25	17	15	30
慢性腎炎	3	1	12	4	1	1	3	4	1	2
本態性高血圧	16	12	12	13	13	10	15	8	13	12
ITP	9	-	-	-	-	5	9	3	-	2
自己免疫疾患	11	14	10	9	14	11	15	6	7	21
循環器疾患	8	17	14	-	-	16	16	11	11	12
精神科疾患（含てんかん）	58	47	49	43	25	47	44	34	48	53
ウイルス性肝炎（※1）	6	9	11	5	5	3	9	4	4	5
消化器疾患（※2）	8	13	12	20	8	78	14	5	9	7
その他	-	-	-	-	-	63	35	30	44	90

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症の集計数は当センターで分娩に至った症例のみに基づく結果である。

切迫早産は本年著明に減少しており、これは妊娠週数が維持できた場合に紹介元に再紹介した症例が多かったためと考えられた。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	151	131	109	115	177	114	153	168	123	64
妊娠高血圧症候群	51	49	49	51	63	58	57	59	86	83
胎児発育不全	36	45	31	28	52	80	76	46	40	41
多胎妊娠	76	56	51	66	55	65	52	51	46	35
前置胎盤	20	14	21	16	21	10	15	9	14	11
産後出血（※3）	12	24	10	21	-	18	12	-	-	-
子癇	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	142	91	108	78	93	131	57
常位胎盤早期剥離	9	15	10	18	12	16	11	11	5	6
HELLP症候群	4	6	4	-	5	5	3	3	4	6
低置胎盤	15	12	6	13	19	5	13	3	12	3
血液型不適合	27	11	12	18	13	1	10	5	3	15
羊水過多	8	8	7	7	7	6	14	15	11	5
羊水過少	9	14	9	7	7	9	11	12	16	12
先天異常	25	28	-	36	20	35	55	47	33	45
その他	-	-	-	-	-	261	88	90	77	4

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

当院で分娩管理を行った症例に加えて、産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

子宮頸管縫縮術は治療的縫縮術3例（反復症例を含む）が、術後流産に至った。子宮動脈塞栓術は増加傾向にあり、院内発生1例、母体搬送8例であった。子宮摘出は0例であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	11	8	14	12	12	26	24	19	14	8
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	1	1	3	-	-	-	-	8	6	3
産道血腫除去術	5	8	1	-	-	8	4	4	5	4
子宮動脈塞栓術	8	5	3	1	8	5	5	3	7	9
子宮摘出術	3	4	4	2	1	-	1	-	1	-
胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2

10 輸血治療症例（例）

自己血輸血のみの症例は含めていない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	20	22	9	9	23	11	16	17	17	8

11 NICU収容症例（例）

本年も前年に続き減少した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
NICU収容症例数	147	131	160	195	377	401	426	358	297	256

1.2 多胎妊娠（例）

本年の多胎妊娠は35例でやや減少した。品胎妊娠はなかった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	75	56	50	66	55	64	50	51	44	35
うちMD（※1）	24	19	37	20	22	44	38	16	17	13
うちDD（※2）	51	37	11	45	33	20	12	33	26	22
うちMM（※3）	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-
うち不明	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
三胎	1	-	1	1	2	1	2	-	2	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

1.3 母体搬送収容数（例）

本年の母体搬送収容数はやや増加した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	156	107	125	106	127	130	123	132	124	153

1.4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

本年の母体搬送疾患は産後出血が多かった。

その他としては、急性腹症や不明熱、妊娠中・分娩中の出血など、精査目的の搬送症例が多かった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	87	49	56	44	62	59	74	65	62	70
妊娠高血圧症候群	13	7	10	5	9	14	19	21	19	25
胎児発育不全	7	1	3	3	-	-	-	1	1	-
産後出血	6	16	12	12	20	16	10	14	13	24
胎児機能不全	8	2	1	4	3	4	4	7	6	8
常位胎盤早期剥離	11	8	8	7	3	4	6	11	5	4
前置胎盤	5	2	5	1	7	-	2	1	1	1
多胎	11	2	4	1	-	-	1	1	1	1
HELLP症候群	3	4	3	1	2	2	4	3	1	2
胎児形態異常	-	3	1	1	2	3	-	1	2	-
未受診	-	-	-	-	-	2	2	1	1	1
その他	61	13	22	30	17	25	22	11	8	28

※1 入院のみ／※2 早産期

1.5 先天異常（例、重複あり）

当院で分娩管理を行った症例に限って集計している。

染色体異常によって複数の胎児異常を認めた症例に関しては、各症候の項目には含めず染色体異常の項目にのみ含めた。また胎児所見から染色体異常を強く疑っていた症例に関しては、羊水検査による確定診断がなかった場合も胎内診断できていたとした。

また本年まで5年連続で症例がなかった疾患に関しては今回の集計にて項目を削除し、昨年までの集計を系統順に項目整理した。

腹腔内嚢胞については、主要な原因疾患については各項目に分類し、原因疾患がはっきりしなかったものやマイナーなものについては腹腔内嚢胞・腫瘍としてまとめた。

疾患名	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	4	-	7	5	3	1	4	2	3	3	1	-	9	6	2	1	7	3	5	5
18トリソミー	3	2	-	-	3	3	4	3	1	1	3	1	2	2	3	3	3	1	3	3
13トリソミー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-
先天異常症候群	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
cystic hygroma	1	1	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2	3	3	2	2	-	-	-	-
胎児水腫	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-	3	3
胸腹水	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-
髄膜瘤	1	1	-	-	3	2	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-
脳室拡大	5	5	6	6	2	2	2	2	-	-	3	3	1	1	-	-	-	-	1	1
脳室内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1
頭蓋内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	2	1	1	-	-
脳梁欠損	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
小脳低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	2	2	-	-	-	-
巨大大槽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
脳出血	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
硬膜下血腫	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
頭皮欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小眼球症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	3	2	1	1	-	-	5	5	-	-	8	8	4	4	5	2	9	7	3	3
口輪筋欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
鯉弓症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
副耳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	2	-
上顎腫瘍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	1	1	2	1	2	1	5	2	1	1	4	4	5	3	14	14	7	3	6	4
ファロー四徴症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-	-	-
両大血管右室起始	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	2	3	3	1	1	-	-
Ebstein奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	1	1	-
肺動脈弁閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	2	-	-
血管輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
Kommerell憩室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
右側大動脈弓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
左心低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	3	3	1	1	-	-
不整脈	4	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	3	1
心不全	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
動脈管瘤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	2	2	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
食道閉鎖	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
先天性嚥門閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	1	1	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-	1	1	2	2
胎便性腹膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-
ヒルシュスプルング病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-
腹壁破裂	1	1	2	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
body stalk anomaly	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
腹腔内嚢胞・腫瘍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3
肝嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	2	2
副腎嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
腹部リンパ腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
水腎症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	1	-	-	3	3
片腎欠損	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
尿道下裂	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	1	3	-
性分化疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
鎖肛	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
手指異常(合指/多指)	2	-	1	-	3	-	2	-	-	-	1	-	6	-	2	1	6	-	2	-
内反足	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
外反足	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
反跳膝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
四肢拘縮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
骨系統性疾患	3	2	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-	-	-	2	1
筋ジストロフィー	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
神経線維腫症1型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

16 母体胎児集中治療室 (MFICU) 入院患者数 (例)

院内症例の入院数は例年と大きく変わらず、搬送症例はやや多かった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
院内症例	38	64	37	37	67	34	81	75	66	75
搬送症例	141	97	112	83	118	124	134	138	133	151
合計	179	161	149	120	185	158	215	213	199	226

1.7 MFICU 入院適応 (例)

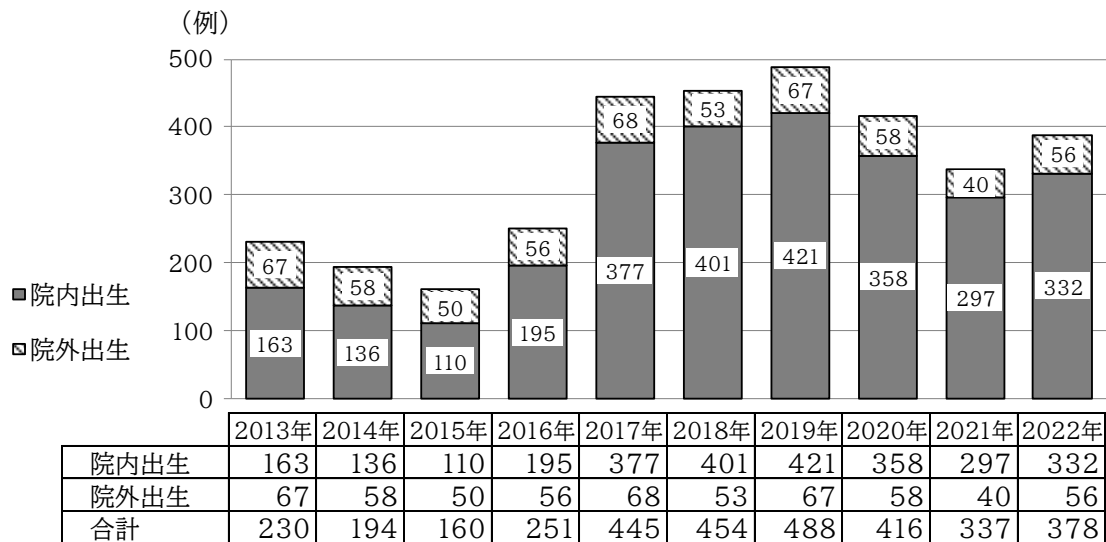
産後出血症例が増加し、その内訳は搬送症例 23 症例、院内症例 2 例であった。原因は弛緩出血がほとんどではあるものの、子宮内反が 3 例、脛壁血腫が 7 例、後腹膜血腫が 1 例、胎盤遺残が 3 例 (重複あり) あった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産 (入院のみ)	89	66	63	56	78	69	88	83	73	89
妊娠高血圧症候群	24	16	14	21	26	22	38	25	47	42
産後出血	18	25	11	18	28	18	12	20	15	25
常位胎盤早期剥離	11	13	11	9	6	12	6	8	6	6
胎児発育不全 (胎内診断のみ)	12	2	8	10	5	9	1	5	1	3
前置胎盤	13	8	10	8	16	2	12	7	6	10
双胎	15	10	6	8	6	10	5	14	8	1
HELLP症候群	4	4	4	3	4	4	3	2	3	3
先天異常	5	6	2	3	1	8	4	2	1	4
肺水腫	3	-	-	2	1	0	1	1	1	0
合併症妊娠	18	5	6	5	7	20	29	25	9	13
その他	3	-	17	12	14	8	16	21	29	41

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

総入院数は 378 例 (再入院 6 例を除く) で、院内出生は 332 例、院外出生は 56 例で、昨年よりやや増加している。



2 主病名 (例)

超低出生体重児・極低出生体重児や外科疾患は増加、COVID-19 感染母体より出生した児が 42 例と多かつた。一方で、出生体重 1,500g 以上 2,500g 未満の低出生体重児は減少している。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
消化管疾患	11	23	24	8	21
新生児嘔吐症	1	5	12	-	3
哺乳不良	2	6	1	1	2
腸回転異常症	-	1	-	-	-
鎖肛	1	-	3	2	2
腸管拡張	-	1	-	-	-
肝嚢胞	-	1	-	-	1
新生児メレナ	1	-	-	1	2
腹壁破裂	-	-	1	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	1	1
胃軸捻転	-	1	-	-	-
急性胃粘膜病変	2	-	-	-	-
小腸十二指腸閉鎖	-	-	2	-	-
小腸閉鎖	1	2	-	-	4
十二指腸狭窄症	-	1	-	-	-
結腸閉鎖	-	-	-	-	-
小腸軸捻転	1	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	1	2	-	1	-
先天性胆道拡張症	1	-	-	-	-
先天性食道閉鎖	-	1	1	-	-
胃食道逆流	-	-	-	-	-
腸閉塞	-	-	1	-	-
肥厚性幽門狭窄症	-	-	1	-	1
壊死性腸炎	-	-	1	-	-
ヒルシュスブルング病	-	2	1	-	3
ミルクアレルギー	-	-	-	2	-
先天性十二指腸閉鎖症	-	-	-	-	1
食道閉鎖症C型	-	-	-	-	1
代謝内分泌	25	13	18	15	7
低血糖	18	11	11	4	3
先天性甲状腺機能低下症	1	-	-	-	-
新生児一過性甲状腺機能亢進症	3	1	6	9	-
ホモシチン尿症	1	-	-	-	-
プロピオン酸血症	1	-	-	1	-
遠位尿管管性アシドーシス	1	-	-	1	-
代謝性アシドーシス	-	-	1	-	-
Smith-Lemli-Opitz 症候群	-	1	-	-	-
甲状腺機能異常	-	-	-	-	4

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
その他	302	324	321	259	213
低出生体重児 (1,500-2,499g)	122	128	166	142	86
極低出生体重児 (1,000-1,499g)	18	12	27	9	11
超低出生体重児 (<1,000g)	22	15	15	18	27
早産児	7	6	6	5	3
新生児仮死	8	15	14	10	11
sleeping baby	-	3	-	-	-
新生児高ビリルビン血症	89	107	50	35	40
血友病A	-	-	-	1	-
多血症	2	1	5	2	2
ABO血液型不適合	2	2	1	2	2
Rh不適合	-	1	-	-	1
その他の血液型不適合	-	1	-	-	-
新生児薬物離脱症候群	24	27	29	27	24
墜落分娩	5	3	3	-	1
遺伝性球状赤血球症	1	-	-	1	-
卵巣出血	1	-	-	-	-
両下鼻甲粘膜炎腫脹	-	1	-	-	-
未熟網膜症	-	1	1	-	-
分娩麻痺疑い	-	1	-	-	-
母児間輸血症候群	-	-	2	-	1
胎児水腫	-	-	1	1	-
上腕骨折	-	-	1	-	-
未受診妊婦から出生した児	-	-	-	2	-
双胎児間輸血症候群	-	-	-	2	-
プロテインC欠乏症	-	-	-	1	-
Gilbert 症候群	-	-	-	1	-
新生児溶血性黄疸	-	-	-	-	1
ジルベール症候群	-	-	-	-	1
大腿骨骨折	-	-	-	-	1
左上肢麻痺・鎖骨骨折	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫	1	-	-	-	-

次ページへ続く

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
心・循環器疾患	18	18	37	36	25
左心低形成	1	-	2	2	-
不整脈	1	2	1	2	3
大動脈縮窄症	1	1	-	2	5
右大動脈弓	-	2	-	2	-
Fallot四徴症	-	2	2	2	1
心室中隔欠損症	1	2	14	8	4
先天性動脈管開存症	-	-	1	1	-
総肺静脈還流異常症	1	-	2	2	-
両大血管右室起始	2	-	1	2	-
完全大血管転位	3	1	-	3	2
Ebstein奇形	1	-	-	-	1
肺動脈閉鎖	1	1	3	-	-
肺動脈弁狭窄症	-	1	-	1	-
末梢性チアノーゼ	-	1	-	-	-
重複大動脈弓	1	-	-	-	-
修正大血管転位	1	-	-	-	-
動脈管瘤	-	3	2	2	-
先天性心疾患の疑い	1	-	-	-	1
房室中隔欠損症	1	-	1	2	3
動脈管早期閉鎖	1	-	-	-	-
新生児遷延性肺高血圧	-	1	-	1	2
左肺動脈欠損	-	1	-	-	-
肺高血圧症	1	-	-	-	-
心房中隔欠損症	-	-	1	1	-
大動脈弓離断	-	-	1	-	-
動脈管蛇行	-	-	1	-	-
左室型単心室症	-	-	1	-	-
左上大静脈遺残	-	-	1	-	-
僧帽弁閉鎖症	-	-	1	-	-
三尖弁異形成	-	-	1	-	-
静脈管開存	-	-	1	-	-
三尖弁閉鎖	-	-	-	2	-
単心室症	-	-	-	1	-
ション複合	-	-	-	-	1
血管輪	-	-	-	-	1
急性循環不全	-	-	-	-	1
感染症	8	16	17	9	52
新生児感染症	7	13	14	8	5
新生児TSS様発疹症	-	1	-	-	2
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	-	-	-	1
先天性トキソプラズマ感染症	-	1	-	1	-
内訳					
GBS感染症	-	-	1	-	1
敗血症	-	-	1	-	-
左肩関節炎	-	-	1	-	-
水痘疑い	-	1	-	-	-
COVID-19感染母体より出生した児	-	-	-	-	42
先天梅毒	-	-	-	-	1

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
染色体異常 奇形症候群	19	12	27	37	28
ダウン症候群	11	3	9	7	7
18トリソミー	4	2	3	3	2
13トリソミー	-	1	-	2	-
口唇口蓋裂	-	2	1	6	5
上顎体	-	1	-	-	-
先天性魚鱗癬症候群	-	1	-	-	-
Beals症候群	-	1	-	-	-
ブラダーウィリ症候群	-	-	1	-	-
尿道下裂	-	-	1	1	4
タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	-	1
先天性頭皮欠損	1	-	-	-	-
頸部嚢胞	1	-	-	-	-
反張膝	1	1	-	-	-
筋強直性ジストロフィー	-	-	2	-	-
先天性白内障	-	-	2	1	-
低ホスファターゼ血症	-	-	1	-	-
先天性ネフローゼ症候群	-	-	1	-	-
膀胱尿管移行部狭窄	-	-	1	-	-
顎下腺内嚢胞	-	-	1	-	-
舌根部腫瘍	-	-	1	-	-
臍前庭部腫瘍	-	-	1	-	-
重複腎盂	-	-	1	-	-
染色体異常	-	-	-	2	-
Body stalk anomaly	-	-	-	1	-
Goldenhar syndrome	-	-	-	1	-
VETER症候群	-	-	-	1	-
XXY症候群	-	-	-	1	-
コルネリア・デランゲ症候群	-	-	-	1	-
胸郭形成不全	-	-	-	1	-
結節性硬化症	-	-	-	1	-
内臓逆位	-	-	-	1	-
皮下リンパ管腫	-	-	-	1	-
多嚢胞性腎症	-	-	-	1	-
水腎症	-	-	-	1	2
卵巣のう腫	-	-	-	1	1
皮膚洞	-	-	-	1	-
腹腔内リンパ管腫	-	-	-	1	1
多嚢胞性腎異形成	1	-	-	-	-
胎児水腫	-	-	1	1	1
先天性表皮水疱症	-	-	-	-	1
先天性内反足	-	-	-	-	1
耳介低位・耳孔欠損	-	-	-	-	1
副腎嚢胞	-	-	-	-	1

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	53	74	55	52	56
新生児一過性多呼吸	37	49	26	28	38
呼吸窮迫症候群	1	1	-	1	-
胎便吸引症候群	1	11	8	5	7
新生児無呼吸発作	8	7	11	4	8
気胸	3	4	4	12	1
喉頭軟化症	-	2	-	-	-
胸水	1	-	-	-	-
先天性肺気道奇形	1	-	-	-	-
気管軟化症	-	-	3	-	-
横隔膜弛緩症	-	-	1	-	-
肺低形成	-	-	1	1	-
鼻腔狭窄	-	-	1	-	-
肺毛細管形成異常	-	-	-	1	-
先天性嚢胞性腺腫性奇形	1	-	-	-	-
慢性肺疾患	-	-	-	-	2

内訳

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
脳・神経疾患	12	8	11	5	8
脳梗塞	1	-	-	-	-
髄膜瘤	1	-	-	-	-
帽状腱膜下血腫	3	2	-	-	1
新生児痙攣	5	2	1	1	1
硬膜下血腫	-	-	2	-	-
脊髄脂肪腫	-	-	1	-	-
てんかん	1	-	-	-	-
脳梁欠損症	1	-	2	-	-
脊髄髄膜瘤	-	1	-	1	-
頭蓋内出血（尾状核出血）	-	1	-	2	1
先天性水頭症	-	2	1	1	-
アペール症候群	-	-	1	-	-
仙骨部皮膚陥凹	-	-	1	-	-
頭蓋骨骨折	-	-	1	-	1
分娩時外傷性脳内出血	-	-	1	-	-
脳室拡大	-	-	-	-	2
頭血腫	-	-	-	-	1
巨大大槽	-	-	-	-	1

内訳

3 出生週数（例）

※再入院 6 例を除く

出生時週数別の入院数は在胎 28 週未満で出生した児は 23 例でやや増加、28 週以上 36 週未満は 71 例で減少している。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
22週	-	2	1	3	1	1	1	-	-	1
23週	3	2	1	2	2	-	-	1	5	1
24週	3	4	6	3	3	2	3	1	1	5
25週	4	3	1	2	2	2	1	3	4	5
26週	2	5	1	3	6	4	1	2	1	4
27週	2	4	3	2	5	7	5	3	2	7
28週	6	6	7	5	1	3	-	5	3	8
29週	5	4	2	6	-	5	3	5	5	3
30週	7	3	4	5	5	10	7	10	4	4
31週	5	8	6	7	13	6	3	4	3	4
32週	18	8	8	10	16	8	8	13	9	3
33週	27	15	10	8	11	13	14	13	9	7
34週	28	8	11	22	24	19	32	26	13	20
35週	17	13	14	12	32	35	40	37	46	22
36週	14	15	13	20	39	38	46	34	29	23
37週以上	84	89	70	135	280	292	323	259	202	259
不明	-	-	-	-	-	3	1	-	1	2

（※2019年不明 1 例は、未受診妊婦のため週数不明）

4 出生時体重（例）

※再入院6例を除く

出生時体重別の入院数は、1,000g未満の超低出生体重児が27例、1,000g以上1,500g未満の極低出生体重児が13例で増加したが、1,500g以上の低出生体重児は117例と前年より減少している。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	-	5	1	3	3	3	2	-	2	-
500-749g	10	9	10	8	9	7	2	7	11	11
750-999g	13	8	9	9	6	11	13	8	5	16
1,000-1,249g	12	7	3	9	7	6	5	13	4	6
1,250-1,499g	16	16	10	15	15	13	8	14	5	7
1,500-1,749g	21	14	14	14	20	15	18	16	19	16
1,750-1,999g	33	14	18	26	34	42	35	31	29	15
2,000-2,249g	21	10	16	24	53	55	57	67	50	38
2,250-2,499g	26	21	15	31	53	53	50	52	44	48
2,500g以上	73	85	62	106	240	243	298	208	168	221

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸管理を行った児は99例と例年とほぼ同程度であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院数（例）	239	216	225	203	177	272	280	275	344	384
人工呼吸器管理症例数（例）	86	66	84	67	63	60	54	61	96	99
人工呼吸器管理症例率（％）	36	31	37	33	36	22	19.3	22.2	27.9	25.7

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

外科疾患は43例と増加、小児外科（消化器外科）疾患が15例と多かった。

出生体重	出生週数	疾患名	術式
500-749g	23週	超低出生体重児	人工肛門造設術 動脈管結紮術
	24週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	22週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	27週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	24週	超低出生体重児	動脈管結紮術
	24週	超低出生体重児 未熟児網膜症	人工肛門造設術 レーザー光凝固術
500-749g	25週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	25週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	24週	超低出生体重児	人工肛門造設術
750-999g	30週	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	27週	超低出生体重児	動脈管結紮術
	28週	超低出生体重児	臍延長術
	27週	超低出生体重児	動脈管結紮術
	26週	超低出生体重児	動脈管結紮術
1,000-1,249g	28週	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	28週	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
1,250-1,499g	30週	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
	37週	18トリソミー 心室中隔欠損症 心房中隔欠損症 肺高血圧 水腎症	肺動脈絞扼術
1,750-1,999g	32週	低出生体重児 頭蓋内出血	脳室外ドレナージ術 気管切開術
	37週	絞扼性イレウス 全結腸型ヒルシュスプリング病	内ヘルニア手術 小腸切除術
2,250-2,499g	37週	多発性小腸閉鎖	小腸吻合術
	35週	水頭症 タナトフォリック骨異形成症	脳室穿破術
	35週	水頭症 タナトフォリック骨異形成症	硬膜下血腫穿孔洗浄術
	37週	ダウン症 大動脈縮窄症	肺動脈絞扼術 動脈管結紮術
2,500-2,749g	38週	小腸閉鎖症	小腸吻合術
	38週	先天性十二指腸閉鎖	十二指腸吻合術
	38週	大動脈縮窄複合	大動脈縮窄修復術
	37週	完全大血管転位2型	大血管転位修復術
2,750-2,999g	38週	ダウン症 小腸閉鎖	小腸吻合術
	37週	小腸閉鎖 胎便性腹膜炎	小腸吻合術
	39週	低位鎖肛	肛門形成術
	39週	重症新生児仮死	気管切開術
3,000-3,249g	39週	大動脈縮窄症	大動脈縮窄修復術
	39週	卵巣のう腫	子宮付属器腫瘍摘出術
3,250-3,499g	39週	完全大血管転位症	大血管転位修復術
	39週	新生児黄疸 肥厚性幽門狭窄症	幽門形成術

7 血液浄化症例

血液浄化症例は重症黄疸による全血交換輸血が2例、多血による部分交換輸血が1例であった。

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
2,250-2,499g	37週	多血症	部分交換輸血
	37週	黄疸	全血交換輸血
2,500-2,749g	36週	ジルベール症候群	全血交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)
22週未満	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
22週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
23週	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (5 / 5)	100.0 (1 / 1)
24週	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (5 / 5)
25週	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	66.7 (2 / 3)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)
26週	75.0 (3 / 4)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)
27週	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (7 / 7)
28週	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	80.0 (4 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (8 / 8)
29週	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	100.0 (5 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)
30週	100.0 (10 / 10)	100.0 (7 / 7)	90.0 (9 / 10)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)
31週	100.0 (6 / 6)	100.0 (3 / 3)	75.0 (3 / 4)	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)
32週	87.5 (7 / 8)	100.0 (8 / 8)	100.0 (13 / 13)	100.0 (9 / 9)	66.7 (2 / 3)
33週	100.0 (13 / 13)	100.0 (14 / 14)	100.0 (13 / 13)	100.0 (9 / 9)	100.0 (7 / 7)
34週	100.0 (19 / 19)	96.9 (31 / 32)	100.0 (26 / 26)	100.0 (13 / 13)	95.0 (19 / 20)
35週	100.0 (35 / 35)	100.0 (40 / 40)	100.0 (37 / 37)	97.8 (45 / 46)	100.0 (22 / 22)
36週	97.4 (37 / 38)	100.0 (46 / 46)	100.0 (34 / 34)	100.0 (29 / 29)	95.7 (22 / 23)
37週以上	100.0 (292 / 292)	100.0 (323 / 323)	99.6 (258 / 259)	99.5 (201 / 202)	99.6 (258 / 259)
不明	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (2 / 2)

内訳：各週数毎の生存数(例)／各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)
500g未満	66.7 (2 / 3)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	50.0 (1 / 2)	- (- / -)
500-749g	100.0 (7 / 7)	100.0 (2 / 2)	100.0 (7 / 7)	100.0 (11 / 11)	100.0 (11 / 11)
750-999g	100.0 (11 / 11)	100.0 (13 / 13)	75.0 (6 / 8)	100.0 (5 / 5)	100.0 (16 / 16)
1,000-1,249g	100.0 (6 / 6)	100.0 (5 / 5)	100.0 (13 / 13)	100.0 (4 / 4)	100.0 (6 / 6)
1,250-1,499g	100.0 (13 / 13)	100.0 (8 / 8)	100.0 (14 / 14)	100.0 (5 / 5)	85.7 (6 / 7)
1,500-1,749g	100.0 (15 / 15)	100.0 (18 / 18)	93.8 (15 / 16)	94.7 (18 / 19)	87.5 (14 / 16)
1,750-1,999g	100.0 (42 / 42)	100.0 (35 / 35)	100.0 (31 / 31)	100.0 (29 / 29)	93.3 (14 / 15)
2,000-2,249g	100.0 (55 / 55)	98.2 (56 / 57)	100.0 (67 / 67)	100.0 (50 / 50)	100.0 (38 / 38)
2,250-2,499g	100.0 (53 / 53)	100.0 (50 / 50)	100.0 (52 / 52)	100.0 (44 / 44)	100.0 (48 / 48)
2,500g以上	99.2 (241 / 243)	100.0 (298 / 298)	99.0 (206 / 208)	99.4 (167 / 168)	99.5 (220 / 221)

内訳：各体重毎の生存数(例)／各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数(例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3	4	4	3	1	4	2	3
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	1	1	-	-	-	1	1	2

1 1 死亡例一覧

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
1,250-1,499g	34週	0-7日	食道閉鎖症C型 臍帯ヘルニア
1,500-1,749g	36週	0-7日	18トリソミー
	30週	8-28日	胎児水腫 ダウン症 一過性骨髄異形成症
1,750-1,999g	32週	8-28日	低出生体重児 頭蓋内出血
2,750-2,999g	37週	0-7日	急性循環不全

1 2 新生児搬送収容数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新生児搬送収容数	57	48	45	40	51	48	64	53	39	51

1 3 新生児搬送疾患名 (例、重複あり)

※手術目的の転院搬送5例を除く

新生児搬送症例の疾患は呼吸障害が最も多く、次いで循環器疾患が多かった。

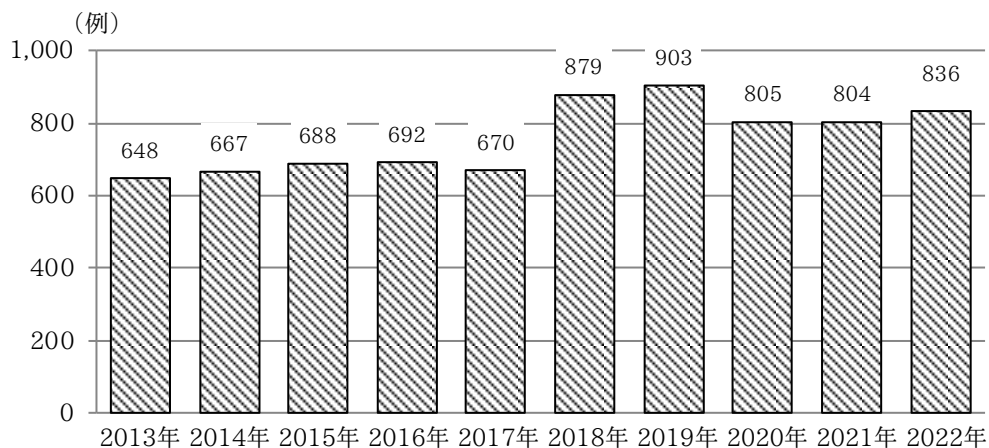
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	17	24	10	10	16	その他	9	21	16	7	14
呼吸障害	10	-	10	10	16	低出生体重児	2	2	2	4	3
新生児一過性多呼吸	-	22	-	-	-	超低出生体重児	-	1	1	-	-
新生児無呼吸発作	6	2	-	-	-	未熟児網膜症	-	1	1	-	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	-	-	-	新生児仮死	4	4	3	1	3
心・循環器疾患	12	6	8	10	7	魚鱗癬	-	-	-	-	-
先天性心疾患	8	6	6	10	-	黄疸	2	3	3	-	3
心雑音	1	-	1	-	1	甲状腺機能異常	-	-	-	-	-
不整脈	-	-	1	-	1	チアノーゼ	-	1	1	-	-
動脈管開存症	1	-	-	-	-	インフルエンザ疑い	-	-	-	-	-
肺高血圧症	1	-	-	-	-	多血	-	-	-	-	-
上室性頻拍	1	-	-	-	-	下肢浮腫	-	-	-	-	-
先天性心疾患の疑い	-	-	-	-	4	上腕骨折	-	-	-	-	-
チアノーゼ	-	-	-	-	1	骨折	-	2	-	-	-
消化管疾患	1	14	8	3	7	関節拘縮	-	1	-	-	-
新生児嘔吐症	-	7	2	2	-	帽状腱膜下血腫	-	1	-	-	-
血便	-	-	-	1	1	分娩麻痺の疑い	-	1	1	-	-
鎖肛	1	-	3	-	-	耳出血	-	-	-	-	-
腹部膨満	-	-	1	-	4	吐血	-	-	-	-	-
哺乳不良	-	7	2	-	-	性分化異常	-	-	-	-	-
嘔吐・哺乳不良	-	-	-	-	2	臀部腫瘍	-	-	-	-	-
脳・神経疾患	7	2	3	-	-	皮疹	-	-	-	-	-
けいれん発作	6	2	2	-	-	墜落産	-	3	1	-	-
帽状腱膜下血腫	1	-	-	-	-	反張膝	1	1	-	-	-
脊椎脂肪腫	-	-	1	-	-	臍帯ヘルニア疑い	-	-	-	-	-
感染症	4	7	8	3	3	早産 (出生体重2500g以上)	-	-	1	-	-
感染症	3	7	8	3	3	頭蓋骨骨折	-	-	1	-	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	-	-	-	-	低血糖	-	-	-	1	-
染色体異常 奇形症候群	5	1	1	6	4	口唇口蓋裂	-	-	-	1	-
染色体異常	5	1	1	6	-	陰部腫瘍	-	-	1	-	-
先天異常・染色体異常の疑い	-	-	-	-	4	分娩外傷	-	-	-	-	4
						母児感輸血症候群	-	-	-	-	1

第3節 奈良県総合医療センター

第1項 産科部門診療実績

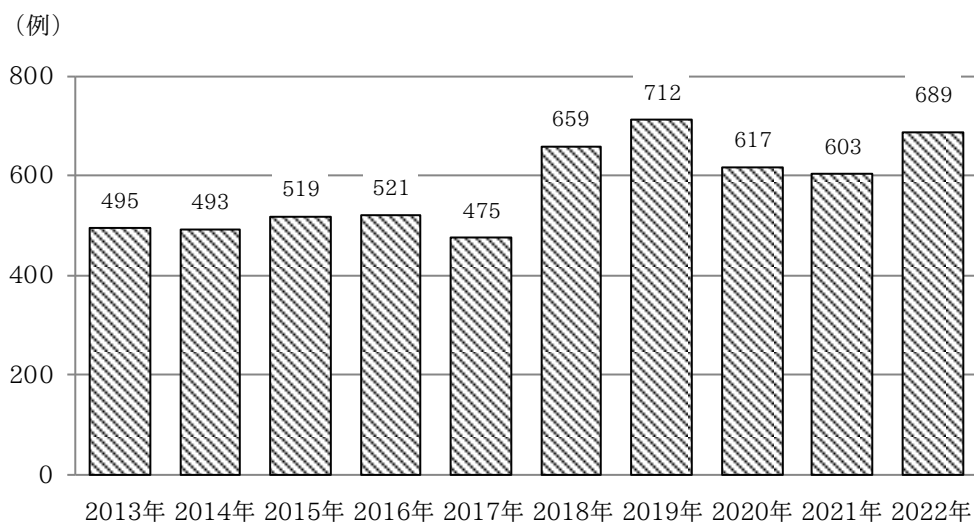
1 入院数

入院患者数は2018年5月の新センター移転後に急増した。2020年に入院数も分娩数も減少し、新型コロナウイルス感染拡大によるものと推測された。本年は漸く入院数も分娩数も上昇傾向に転じた。



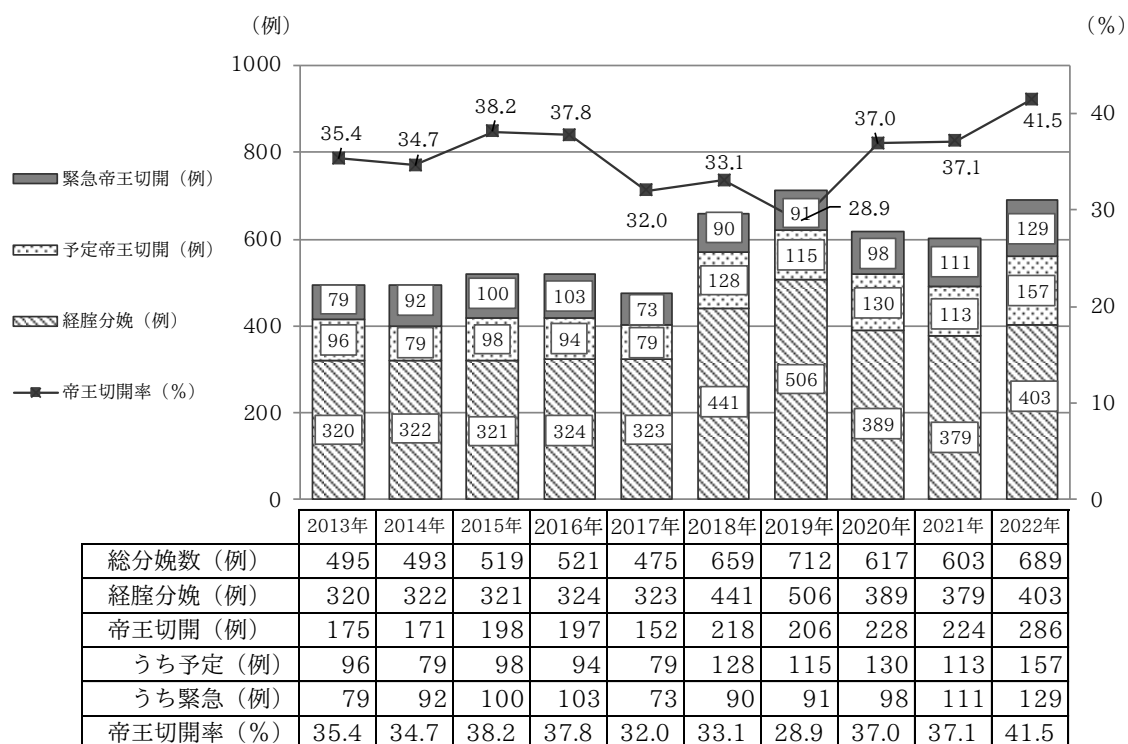
2 分娩数

地域周産期母子医療センターとしての役割を考慮し、緊急症例やハイリスク患者への対応能力を維持する目的で分娩制限を設けている。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年から分娩数は減少したが、本年は上昇傾向に転じた。2022年6月より小児外科疾患の受け入れが可能となり、当院で対応可能な症例が増えたことも一因であると考えられた。



3 分娩様式

当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開とし、経膈分娩(TOLAC)は実施していない。ハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いてきたため帝王切開率は35%前後で経過していたが、本年は41%と増加した。予定帝王切開率が例年より若干高く、前置胎盤や低置胎盤の症例が増加したことなどが影響した可能性がある。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降(児推定体重1,000g以上)を、奈良医大ではそれ以前や胎児形態異常などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、役割分担を行っている。奈良医大との適切な母体搬送の連携により、当センターで妊娠28週未満の分娩は殆どない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
24週	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
28週	2	2	4	2	3	1	3	1	2	1
29週	2	2	1	1	-	3	4	1	-	-
30週	6	4	4	5	2	8	2	4	5	2
31週	7	4	8	7	8	9	7	2	3	4
32週	11	10	10	12	4	5	7	4	8	10
33週	9	11	14	18	15	11	9	9	12	7
34週	18	22	21	24	21	24	25	25	22	23
35週	17	28	28	32	26	39	22	29	30	27
36週	29	23	43	40	24	35	30	37	34	45
37週	101	111	114	125	107	115	122	119	112	107
38週	91	73	101	96	96	159	168	146	136	162

次ページへ続く

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
39週	86	116	81	101	90	120	139	114	129	140
40週	85	86	83	69	76	122	152	114	112	145
41週	29	27	32	23	19	48	51	46	37	45
42週以上	2	6	-	-	1	-	-	-	-	-
不明	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1,000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることを取り決めた結果、出生体重1,000g未満の分娩は年間0～3例で推移しており、本年は0例であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500-999g	2	3	2	3	-	1	1	1	-	-
1,000-1,499g	15	14	15	11	15	17	15	12	8	8
1,500-1,999g	25	43	44	58	35	39	37	33	45	35
2,000-2,499g	87	91	110	114	87	120	99	99	102	104
2,500g以上	394	377	374	370	355	522	590	506	487	571
不明	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

6 出産時年齢（例）

本年の分娩妊婦689例のうち35歳以上は302例（43.8%）、40歳以上は95例（13.8%）である。全国統計より35歳以上の妊婦の割合が高く、地域周産期母子医療センターとして高年妊娠を多く受け入れている。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	281	273	305	303	280	379	428	345	332	387
35-39歳	158	165	163	151	141	209	217	178	192	207
40-44歳	55	52	50	63	47	70	62	88	77	90
45歳以上	1	3	1	4	3	1	5	6	2	5

7 合併症妊娠（例）

糖尿病は増加傾向にあり、昨年と同様に過去最高の59例を取り扱った。精神科疾患は年々増加している。その他は、中枢神経系疾患17例や子宮腺筋症/内膜症14例、尿路系疾患9例、悪性疾患5例、TCR後4例、血液疾患3例、再発性気胸1例、膈中隔1例である

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	36	33	29	42	32	53	34	34	42	47
子宮筋腫（核出術後）	-	10	14	16	8	18	14	17	14	13
卵巣嚢腫（腫瘍）	4	5	9	5	6	8	12	15	10	13
子宮頸癌（含円錐切除後）	3	8	10	9	4	14	16	15	10	17
子宮形態異常	4	1	6	1	2	6	3	7	5	1
甲状腺機能亢進症	8	9	6	12	8	15	9	8	7	7
甲状腺機能低下症	7	10	9	14	28	23	25	29	30	35
糖尿病（含GDM）	20	27	27	29	32	43	50	35	59	59
喘息	-	-	11	9	10	13	12	13	19	10
慢性腎炎	3	2	4	-	4	3	4	2	3	6
本態性高血圧	1	7	4	5	2	5	7	4	4	8
ITP	-	-	-	-	-	4	2	2	-	2
自己免疫疾患	8	12	2	5	2	7	4	6	2	8

次ページへ続く

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
循環器疾患	3	2	7	-	8	4	-	2	10	2
精神科疾患（含てんかん）	14	33	24	20	34	36	41	29	33	39
ウイルス性肝炎（※1）	1	2	7	-	2	-	-	2	1	1
消化器疾患（※2）	2	4	4	8	2	4	3	1	6	7
その他	-	-	-	-	-	-	-	34	35	54

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症は切迫早産や前期破水が多くを占めている。本年は前置胎盤、低置胎盤が多い傾向にあった。本年より小児外科疾患を管理できるようになり、先天異常が増加したが、先天性心疾患や脳疾患などが疑われた場合は他院に紹介している。その他は切迫流産16例、重症妊娠悪阻10例、癒着胎盤/胎盤遺残6例などが含まれる。

産科合併症の集計数は当センターで分娩に至った症例のみに基づく結果であり、紹介元医療機関へ逆紹介した症例や他院へ紹介・転送した症例や産後の搬送症例は含まれていない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	219	147	168	189	140	182	149	130	126	112
妊娠高血圧症候群	21	42	58	57	36	37	50	39	65	54
胎児発育不全	13	14	35	39	28	35	35	33	35	27
多胎妊娠	30	36	34	41	24	44	37	38	42	36
前置胎盤	12	11	7	15	8	12	15	12	6	16
産後出血（※3）	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
子癇	4	2	1	-	-	1	2	-	4	1
弛緩出血（※4）	282	136	56	62	50	21	188	82	81	83
常位胎盤早期剥離	4	8	8	7	6	5	5	8	7	4
HELLP症候群	1	-	1	2	1	1	2	3	6	4
低置胎盤	5	1	5	4	4	4	2	7	7	16
血液型不適合	6	4	6	8	8	9	10	9	5	4
羊水過多	-	1	-	2	2	3	6	4	5	6
羊水過少	2	3	7	3	2	3	6	10	7	7
先天異常	-	-	-	4	3	1	3	4	2	7
その他	-	-	-	-	-	-	-	25	38	45

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

当センターで分娩管理を行った症例に加えて、当センターで分娩管理を行わなかった妊娠中の手術症例や産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

子宮動脈塞栓術は院内発生4例、母体搬送10例内1例は2回実施と例年より多く、子宮摘出は0例であった。その他は子宮破裂2例と経膈分娩後の腹式卵管結紮術2例である。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	3	5	6	1	3	2	9	3	6	4
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	12	2	2	2	3	2	1	4	2	7
産道血腫除去術	-	1	-	3	-	2	1	-	-	-
子宮動脈塞栓術	2	4	3	-	-	-	-	7	3	14
子宮摘出術	1	1	-	-	1	-	-	4	3	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	6	4	4

10 輸血治療症例（例）

産後の母体搬送症例も含めて集計している。院内の8例内1例は子宮内外同時妊娠の破裂で妊娠初期に輸血、院外の13例に同種血輸血を行った。産後出血で搬送された症例の80% (12/15例) で同種血輸血を要し、1例は妊娠中期に搬送された症例である。自己血輸血のみを返血した18例は含めていない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	14	20	33	25	24	12	9	17	11	21

11 NICU 収容症例数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
NICU収容症例数	208	227	141	147	110	155	141	170	192	165

12 多胎妊娠（例）

本年の多胎妊娠は36例で、近年とおおむね変化はなかった。三胎妊娠は当センターでは取り扱っておらず、奈良医大に紹介としている。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	30	37	34	41	24	44	37	38	42	36
うちMD（※1）	11	16	10	18	9	20	18	17	15	18
うちDD（※2）	19	21	24	23	15	24	19	21	27	18

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

13 母体搬送収容数（例）

母体搬送依頼があったが受け入れられなかった例は12例内2例は28週未満が理由である。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	105	141	147	148	151	155	132	115	133	132

14 母体搬送疾患名（例、重複あり）

母体搬送の理由は切迫早産や前期破水が大半を占め、全体として例年とほぼ同様の傾向であった。近年前置胎盤症例が減少しているのは、早期に高次医療施設へ外来紹介をされていると考えられた。その他はCOVID-19/発熱5例、微弱陣痛2例などが含まれる。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	74	84	97	94	87	101	77	71	77	77
妊娠高血圧症候群	6	10	19	16	11	16	9	9	15	17
胎児発育不全	2	1	1	4	1	-	-	-	-	1
産後出血	2	20	8	11	17	6	14	12	16	15
胎児機能不全	1	2	2	3	9	3	-	2	4	5
常位胎盤早期剥離	5	5	3	3	2	4	5	4	5	2
前置胎盤	2	1	2	2	2	6	5	1	1	1
多胎	1	4	-	-	-	-	-	1	4	1
HELLP症候群	1	2	-	1	2	1	3	1	2	0
胎児形態異常	-	-	-	-	1	-	-	2	0	0
帝王切開合併症	-	-	-	-	2	-	-	5	6	7
未受診	-	-	-	-	2	-	2	1	1	0
その他	28	12	15	14	15	18	17	17	14	12

※1 入院のみ／※2 早産期

1 5 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	-	2	-	-	2	1	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1
心室中隔欠損	-	-	-	-	1	1	2	1
骨系統性疾患	-	-	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	2	2	-	1	-
胸腹水	-	-	-	-	-	-	2	2
Treacher-Collins症候群	-	-	-	-	1	-	-	-
片腎欠損	-	-	-	-	1	-	-	-
獣皮様母斑	-	1	-	-	-	-	-	-
水腎症	1	1	-	-	-	-	-	-
potter症候群	1	1	-	-	-	-	-	-
ターナー症候群	1	1	-	-	-	-	-	-
Beckwith wiedmann症候群	1	1	1	1	-	-	-	-
21trisomy	-	1	-	-	-	-	-	-
骨系統疾患	1	1	-	-	-	-	-	-
外耳形成不全	-	-	1	-	-	-	-	-
肺高血圧症	-	-	-	-	1	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	-	1	-	-	-
内臓逆位	-	-	-	-	-	-	2	1
大静脈裂孔ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1
巨大水尿管	-	-	-	-	-	-	1	1
右臍静脈遺残	-	-	-	-	-	-	1	1
先天性副腎過形成	-	-	-	-	-	-	1	1
家族性洞不全症候群	-	-	-	-	-	-	1	1
右側動脈弓右動脈管	-	-	-	-	-	-	1	1

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

MFICU としての機能を備えた病室は周産期センター内に3床備えているが、現在、保険診療上のMFICUとして稼働していない。現時点では、搬送直後の症例および重症であり周産期センターで管理すべき症例のほかにも、産科病棟が満床の場合の個室として使用する場合や帝王切開術後の回復病床として使用するなど流動的な扱いとなっている。

当該病床に入院した人数を集計し表記しているが、上記の通り、その患者数と重症度は必ずしもMFICUの適応に準じているわけではないことに留意されたい。

	2019年	2020年	2021年	2022年
院内症例	244	219	186	191
搬送症例	119	105	88	92
合計	363	324	274	283

1.7 MFICU 入院適応（例）

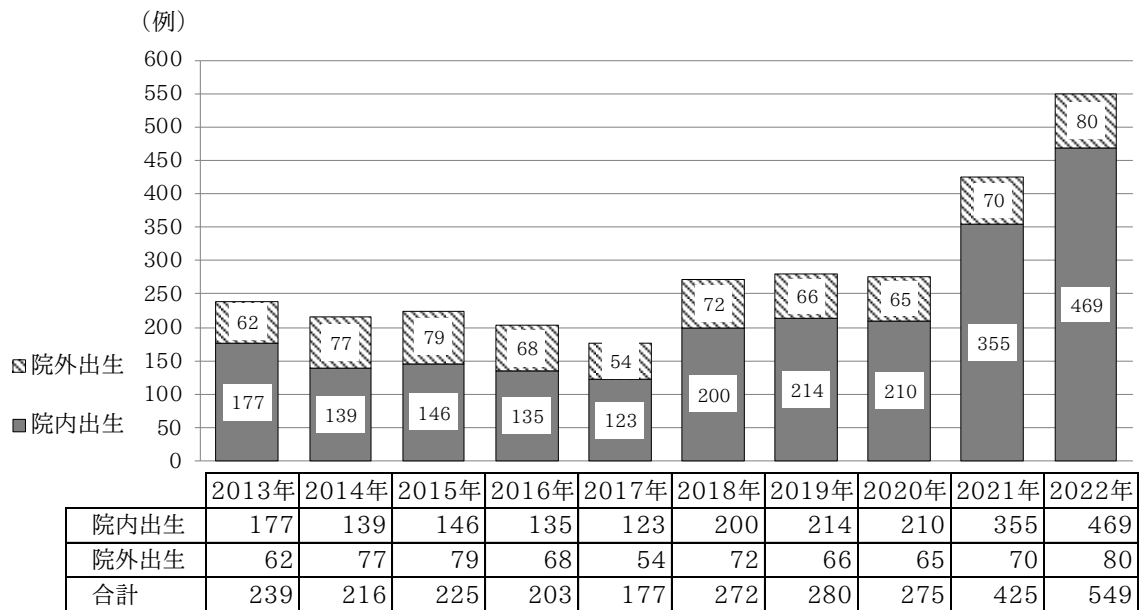
その他にあたる症例の多くは、初期・中期流産や中絶、帝王切開術後の回復病床として、入室させた例である。

	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（入院のみ）	110	57	44	41
妊娠高血圧症候群	13	31	33	42
産後出血	12	9	9	12
常位胎盤早期剥離	3	4	5	2
胎児発育不全（胎内診断）	5	3	1	2
前置胎盤	10	12	5	6
双胎	10	16	9	10
HELLP症候群	4	1	1	0
先天異常	7	-	-	0
肺水腫	-	-	-	2
合併症妊娠	7	1	4	2
その他	182	190	163	164

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

NICU 及び GCU 入院の総数。同患者が別病名で複数回入院することもあり、分娩数より数が多くなっている。



2 主病名 (例)

当院の特徴上、正期産児の呼吸障害の新生児搬送が多い。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	100	91	183	181	130
新生児呼吸障害	-	-	-	-	3
新生児一過性多呼吸	74	63	124	125	87
重症新生児無呼吸発作	-	6	-	-	-
新生児無呼吸発作	12	1	11	14	-
新生児呼吸窮迫症候群	5	11	26	22	18
胎便吸引症候群	5	6	7	5	5
喉頭軟化症 (疑い含む)	-	1	1	1	1
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	8	6	2
新生児慢性肺疾患	-	3	1	1	-
新生児肺出血	-	-	3	5	5
誤嚥性肺炎	2	-	1	-	-
新生児肺炎	-	-	1	-	-
縦隔気腫	1	-	-	1	2
先天性嚢胞性疾患	-	-	-	1	-
新生児無呼吸	-	-	-	-	6
新生児遷延性無呼吸	-	-	-	-	1
心・循環器疾患	2	5	16	11	7
新生児遷延性高血圧症	2	2	3	3	-
動脈管開存症	-	-	6	1	-
心室中隔欠損症	-	2	2	1	2
心房中隔欠損症	-	-	2	-	1
末梢肺動脈狭窄症	-	-	1	-	-
Fallot四徴症	-	-	1	1	1
肺高血圧症	-	-	-	1	-
総肺動脈還流異常	-	-	1	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	1	-
先天性巨大動脈瘤	-	1	-	-	-
房室中隔欠損症	-	-	-	1	-
完全大血管転位	-	-	-	1	-
頸部動静脈瘻	-	-	-	1	-
新生児徐脈	-	-	-	-	3
感染症	5	8	3	11	60
重症感染症の疑い	-	-	-	-	-
新生児感染症	2	4	1	3	5
新生児TSS様発疹症	-	-	-	-	1
GBS感染症	1	-	-	1	-
先天梅毒 (疑い含む)	-	1	-	-	-
新生児敗血症 (疑いも含む)	-	1	-	1	-
新生児膿瘍症・膿瘍疹	-	-	2	-	-
細菌性髄膜炎	-	1	-	-	1
B群溶連菌感染症	1	-	-	-	-
グラム陰性桿菌敗血症	1	-	-	-	-
新生児カンジダ症	-	1	-	-	-
ヒトパレコウィルス感染症	-	-	-	1	-
COVID-19感染妊婦から出生した児	-	-	-	4	46
水痘疑い	-	-	-	1	-
新生児発疹症	-	-	-	-	2
先天性トキソプラズマ感染症疑い	-	-	-	-	1
COVID-19疑似症母体から出生した児	-	-	-	-	1
COVID-19濃厚接触母体から出生した児	-	-	-	-	1
COVID-19疑い	-	-	-	-	2

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
染色体異常 奇形症候群	6	3	13	7	11
18トリソミー	-	-	-	1	-
21トリソミー (疑い含む)	4	1	7	1	2
Prader-Willi症候群	-	-	1	-	1
口唇口蓋裂・口蓋裂	-	1	3	1	1
両側低形成腎	-	-	1	-	-
気管支肺異形成症	-	-	-	1	-
トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	-	1	1
ベックウィズ・ウィーデマン症候群	-	-	1	-	-
1P36欠失症候群	1	-	-	-	-
ルピンスタイン・タイビー症候群	1	-	-	-	-
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	1	-	-	-
フリーマン・シェルドン症候群	-	-	-	1	-
COL4A1 遺伝子異常	-	-	-	1	-
CHARGE症候群	-	-	-	-	1
タナトホリック骨異形成症	-	-	-	-	1
軟骨無形成症	-	-	-	-	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1
重複腎盂尿管	-	-	-	-	1
多指症、肋骨奇形	-	-	-	-	1
その他	152	157	107	207	320
低出生体重児	51	32	5	9	10
極低出生体重児	15	11	8	1	3
超低出生体重児	2	1	3	-	-
早産児	28	-	5	2	38
重症新生児仮死	2	26	6	5	1
新生児仮死	1	6	1	8	-
潜在性胎児仮死	-	1	-	-	-
新生児重症黄疸	-	-	1	1	-
新生児黄疸	18	48	35	60	58
高ビリルビン血症	7	4	-	-	-
新生児低血糖	1	4	1	7	-
高インスリン性低血糖症	-	-	4	2	-
新生児高インスリン血症	-	1	-	-	-
新生児低体温症	-	1	-	1	2
多血症	-	-	2	2	1
新生児ABO不適合溶血性疾患	1	-	-	-	1
双胎間輸血症候群	-	-	1	4	-
胎盤輸血症候群	21	-	-	-	-
母児間輸血症候群	-	-	1	-	-
帝切児症候群	-	22	29	103	202
一過性骨髄増殖症	-	-	1	-	-
左側多嚢胞性異形成腎	-	-	1	-	-
先天性ネフローゼ症候群	-	-	1	-	-
甲状腺機能低下症	1	-	-	1	-
未熟児網膜症	-	-	1	-	-
胎盤からの胎児出血	1	-	-	-	-
副腎皮質過剰形成症の疑い	1	-	-	-	-
新生児溶血性貧血	1	-	1	-	-
新生児便秘症	1	-	-	-	-
新生児薬物離脱症候群	-	1	-	-	-
貧血	-	-	-	1	-
乳び胸、新生児胸水	-	-	-	-	2
新生児播種性血管内凝固	-	-	-	-	1
両側陰嚢水腫、精索捻転疑い	-	-	-	-	1

次ページへ続く

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
消化管疾患	4	10	9	5	13	脳・神経疾患	3	4	5	5	8
新生児嘔吐	2	6	2	2	5	新生児低酸素性虚血性脳症	1	2	4	1	-
哺乳障害	-	2	3	1	2	mendosal suture遺残	-	-	1	-	-
肥厚性幽門狭窄症	-	-	1	-	-	新生児痙攣	2	1	-	3	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	1	-	-	てんかんの疑い	-	1	-	-	-
新生児血便	-	1	-	-	-	先天性筋ジストロフィー	-	-	-	1	-
ミルク消化管アレルギー	-	-	1	-	1	新生児仮死	-	-	-	-	5
胃軸捻症	-	-	-	-	2	脊髄性筋萎縮症1型	-	-	-	-	1
体重増加不良	1	1	-	1	-	SMARD1	-	-	-	-	1
急性胃粘膜病変	1	-	1	-	-	代謝内分泌	-	1	1	-	18
脾臓出血	-	-	-	1	-	複合性下垂体機能低下症	-	1	-	-	-
先天性食道閉鎖症	-	-	-	-	1	先天性甲状腺機能低下症	-	-	1	-	2
新生児胃破裂	-	-	-	-	1	新生児低血糖	-	-	-	-	12
腸回転異常疑い	-	-	-	-	1	高インスリン性低血糖	-	-	-	-	2
						先天性副腎皮質過形成	-	-	-	-	1
						新生児バセドウ	-	-	-	-	1

3 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
23週	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-
28週	4	3	6	2	3	1	2	1	3	4
29週	4	2	1	1	-	3	5	3	-	-
30週	5	3	5	3	2	9	2	5	5	2
31週	7	4	10	9	9	9	7	1	3	4
32週	12	10	14	13	4	7	7	5	8	10
33週	22	13	17	12	15	11	9	9	12	8
34週	17	23	22	22	21	24	27	26	25	24
35週	27	33	36	32	28	41	24	32	24	30
36週	13	17	16	14	9	20	31	22	30	55
37週以上	127	104	97	89	86	146	161	169	314	409
不明	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3

4 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-
750-999g	2	4	2	7	-	1	-	3	1	-
1,000-1,249g	6	6	10	6	6	9	6	10	2	3
1,250-1,499g	21	10	10	7	9	10	9	5	6	8
1,500-1,749g	24	16	23	19	11	16	15	9	14	12
1,750-1,999g	20	31	35	27	27	25	24	24	35	26
2,000-2,249g	23	31	25	29	27	35	30	35	37	32
2,250-2,499g	31	25	27	27	23	40	37	25	52	76
2,500g以上	112	93	93	80	74	134	155	164	278	392

5 人工呼吸器管理 (例)

帝王切開児が GCU 入院となっているため、相対的に人工呼吸管理比率が低くなっている。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院数 (例)	239	216	225	203	177	272	280	275	425	549
人工呼吸器管理症例数 (例)	86	66	84	67	63	60	54	61	82	73
人工呼吸器管理症例率 (%)	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	19.3	13.3%

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

出生体重	出生週数	疾患名	術式
1,250-1,499g	32週	新生児胃破裂	急性汎発性腹膜炎手術
2,250-2,499g	37週	タナトホリック骨異形成症	腹腔鏡下胃瘻造設術
2,500-2,749g	39週	先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下横隔膜修復術

7 血液浄化症例

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
1,500-1,749g	39週	多血症	部分交換輸血

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（%）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
22週未満	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
22週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
23週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
24週	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
25週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）
28週	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
29週	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（2 / 2）
31週	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
32週	100.0（7 / 7）	100.0（7 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（10 / 10）
33週	100.0（11 / 11）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（12 / 12）	100.0（8 / 8）
34週	100.0（24 / 24）	100.0（27 / 27）	100.0（26 / 26）	100.0（25 / 25）	100.0（24 / 24）
35週	100.0（41 / 41）	100.0（24 / 24）	100.0（32 / 32）	100.0（24 / 24）	100.0（30 / 30）
36週	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（22 / 22）	100.0（30 / 30）	100.0（55 / 55）
37週以上	99.3（145 / 146）	98.8（160 / 162）	99.4（168 / 169）	100.0（314 / 314）	100.0（409 / 409）
不明	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（3 / 3）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（%）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
500g未満	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
1,000-1,249g	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）	100.0（10 / 10）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）
1,250-1,499g	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）	100.0（5 / 5）	100.0（6 / 6）	100.0（8 / 8）
1,500-1,749g	100.0（16 / 16）	100.0（15 / 15）	100.0（9 / 9）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）
1,750-1,999g	100.0（25 / 25）	100.0（24 / 24）	100.0（24 / 24）	100.0（35 / 35）	100.0（26 / 26）
2,000-2,249g	100.0（35 / 35）	100.0（30 / 30）	100.0（35 / 35）	100.0（37 / 37）	100.0（32 / 32）
2,250-2,499g	100.0（40 / 40）	97.3（36 / 37）	100.0（25 / 25）	100.0（52 / 52）	100.0（76 / 76）
2,500g以上	99.3（133 / 134）	99.4（154 / 155）	99.4（163 / 164）	100.0（278 / 278）	100.0（392 / 392）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
早期新生児死亡数	1	1	2	-	1	-	2	1	-	-
後期新生児死亡数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

11 死亡例一覧

本年の死亡症例は0であった。

12 新生児搬送収容数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新生児搬送収容数	62	79	78	68	56	69	66	60	68	80

1 3 新生児搬送疾患名 (例、重複あり)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	31	41	53	40	45	その他	24	9	28	16	8
呼吸障害	21	1	1	-	2	低出生体重児	5	1	-	1	2
新生児低酸素血症	-	-	1	-	-	極低出生体重児	1	-	1	-	-
新生児一過性多呼吸	5	32	36	26	32	超低出生体重児	1	-	2	-	-
新生児無呼吸発作	1	2	2	3	-	早産児	-	2	4	-	2
新生児呼吸窮迫症候群	-	2	2	-	2	新生児仮死	2	1	1	2	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	6	4	1	重症新生児仮死	-	3	5	3	-
新生児肺出血	-	-	2	1	-	黄疸	3	-	3	3	1
胎便吸引症候群	3	4	2	3	3	新生児高ビリルビン血症	2	1	-	-	-
新生児肺炎	-	-	1	-	-	低血糖	-	-	-	1	1
咽頭軟化症	-	-	-	1	-	新生児ABO不適合溶血性疾患	-	-	-	-	1
左声帯不完全麻痺	-	-	-	1	-	新生児脱水症	-	-	1	1	-
先天性嚢胞性肺疾患	-	-	-	1	-	C BW	-	-	1	1	-
肺出血	-	-	-	-	4	新生児低酸素性虚血性脳症	-	1	1	-	-
新生児無呼吸	-	-	-	-	1	G B S敗血症	-	-	1	-	-
脳・神経疾患	2	1	-	4	5	新生児鎖骨骨折	-	-	1	-	-
新生児痙攣	2	1	-	4	1	鼠径ヘルニア	1	-	1	-	-
脊髄性筋萎縮症1型	-	-	-	-	1	胎盤からの胎児出血	1	-	1	-	-
新生児仮死	-	-	-	-	2	未熟児網膜症	-	-	1	-	-
重症新生児仮死	-	-	-	-	1	母児間輸血症候群	-	-	1	-	-
心・循環器疾患	5	3	5	7	3	先天性ネフローゼ症候群	-	-	1	-	-
完全大血管転位症	-	-	-	1	-	新生児高インスリン血症	-	-	2	1	-
新生児遷延性肺高血圧症	-	1	1	1	-	高度インスリン低血糖症	-	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	1	-	1	-	-	重症黄疸	-	-	-	1	-
大動脈狭窄症の疑い	1	-	-	1	-	新生児低体温症	-	-	-	1	1
上室性頻拍症	1	-	-	-	-	精索捻転疑い、陰嚢水腫	-	-	-	-	1
先天性巨大動脈瘤	-	1	-	-	-	詳細不明	8	-	-	-	-
FalLOT四徴症	-	-	1	1	-	消化管疾患	5	7	5	2	8
房室中隔欠損症	-	-	1	1	-	新生児嘔吐症	-	4	1	1	3
動脈管開存症	2	1	1	1	-	先天性横隔膜ヘルニア	-	-	1	-	-
頸部動静脈瘻	-	-	-	1	-	新生児メレナ	-	-	-	-	1
心室中隔欠損症	-	1	1	-	1	哺乳不良	1	-	-	-	-
心房中隔欠損症	-	-	-	-	1	哺乳障害	1	2	3	-	2
新生児徐脈	-	-	-	-	1	新生児便秘症	1	-	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	4	2	7	6	5	体重増加不良	-	1	-	-	-
染色体異常	1	-	-	1	-	膀胱尿管逆流	1	-	-	-	-
口唇口蓋裂	-	-	1	1	-	副腎皮質過形成症の疑い	1	-	-	-	-
メンケス病の疑い	1	-	-	-	-	脾臓出血	-	-	-	1	-
ダウン症(疑い含む)	1	1	5	1	2	先天性食道閉鎖	-	-	-	-	1
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	1	-	-	-	腸回転異常疑い	-	-	-	-	1
ベックウィズ・ウィーデマン症候群	-	-	1	-	-	感染症	2	4	5	3	11
1p36欠失症候群 TRPV4遺伝子ナンセンス変異	1	-	-	-	-	感染症	1	2	3	3	5
18トリソミー (疑い含む)	-	-	-	1	-	新生児細菌性髄膜炎	-	1	-	-	-
COL4A1遺伝子異常	-	-	-	1	-	新生児膿疱疹	-	-	2	-	-
多小脳回	-	-	-	1	-	新生児カンシダ症	-	1	-	-	-
CHARGE症候群	-	-	-	-	1	敗血症の疑い	1	-	-	-	-
Prader-Willi症候群	-	-	-	-	1	COVID-19母体から出生した児	-	-	-	-	2
軟口蓋裂	-	-	-	-	1	COVID-19感染疑い	-	-	-	-	2
						新生児TSS様発疹症	-	-	-	-	1
						新生児発疹症	-	-	-	-	1

1 4 三角搬送 (例)

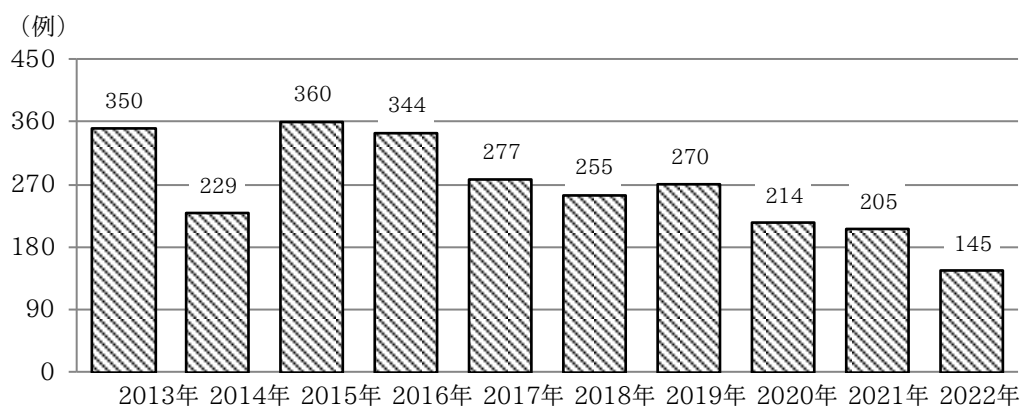
出生体重	出生週数	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
2,750-2,996g	41週	0-7日	頭蓋骨陥没骨折疑い	奈良医大附属病院	脳外科疾患のため
2,500-2,749g	38週	0-7日	新生児一過性多呼吸	奈良医大附属病院	満床のため
	38週	0-7日	重症貧血	奈良医大附属病院	満床のため
3,000-3,249g	39週	0-7日	鎖肛	近大奈良病院	小児外科疾患のため
	41週	0-7日	先天性肺嚢胞性腺腫奇形疑い	近大奈良病院	小児外科疾患のため
4,000-4,249g	40週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため

第4節 近畿大学奈良病院

第1項 産科部門診療実績

1 入院数

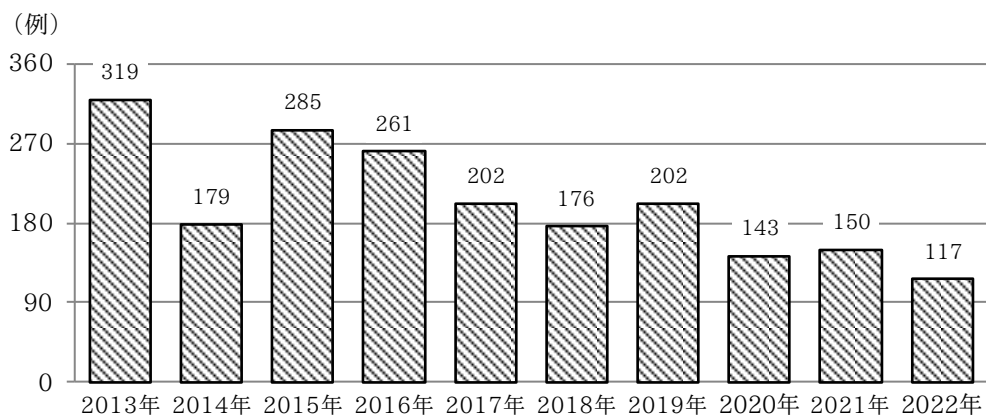
本年の当院における産科入院患者数は分娩数の減少を反映しさらに減少した。



2 分娩数

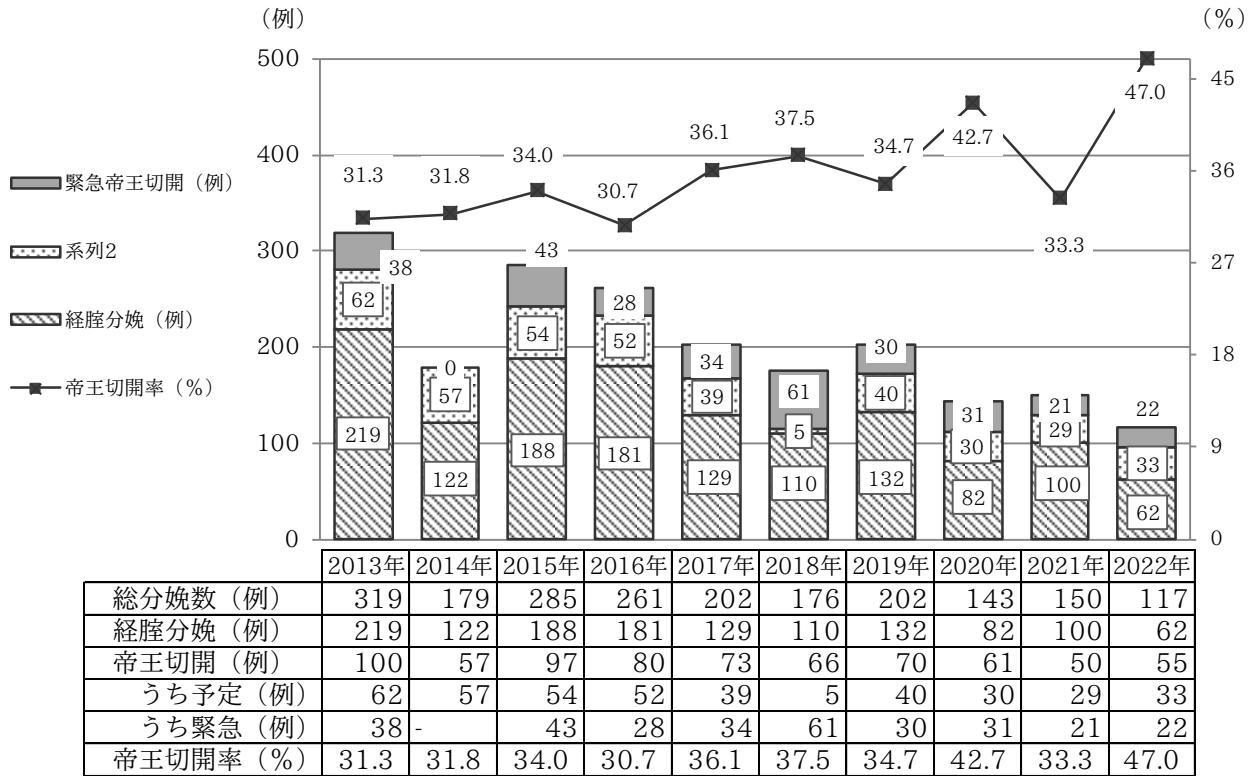
分娩数は2015年以降減少傾向にあるが、2021年の150件から2022年の117件へさらに減少した。

また当院常勤の小児外科医が2022年6月末で奈良県総合医療センターに移動となり、2022年7月でNICUは実質的業務を終了した。



3 分娩様式

本年は、帝王切開率は47.0%と上昇した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2022年7月でのNICUの実質的業務終了とともにそれ以降は原則として妊娠35週以降の母体の受け入れを実施していた。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
23週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
32週	-	1	3	-	3	-	-	2	-	-
33週	1	2	1	3	1	6	2	2	2	-
34週	2	1	4	8	5	5	3	2	3	-
35週	2	-	10	4	5	6	4	2	8	4
36週	8	1	15	11	5	9	5	7	3	2
37週	44	28	34	31	24	29	16	27	16	10
38週	77	48	78	70	57	43	69	34	34	36
39週	77	32	65	56	46	36	37	34	36	27
40週	67	45	58	54	41	35	50	28	38	22
41週	39	19	17	21	15	11	15	8	11	16
42週以上	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2022年7月でのNICUの実質的業務終了とともに、ほとんどの児が2000g以上で出生している。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
500-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	-	1	2	-	-	2	-	1	1	-
1,500-1,999g	3	3	6	6	6	7	5	6	3	2
2,000-2,499g	34	7	31	38	25	24	14	19	20	11
2,500g以上	281	168	246	220	172	149	183	120	128	104

6 出産時年齢（例）

本年の出生時年齢35歳以上の割合は48.7%、40歳以上の割合では17.1%であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	196	88	154	152	111	96	117	79	84	60
35-39歳	102	67	98	78	74	68	62	39	43	37
40-44歳	21	24	30	29	16	11	22	22	23	18
45歳以上	-	-	-	2	1	1	1	3	-	2

7 合併症妊娠（例）

GDMを含む糖尿病や甲状腺機能亢進症が多かった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	-	-	-	14	16	11	12	10	14	8	8
子宮筋腫（核出術後）	1	-	6	-	-	-	-	1	-	1	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	1	-	13	17	21	14	3	6	3	1
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	4	-	-	6	-	2	-	3	-
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	1	4	2	4	1	1	6
甲状腺機能低下症	-	-	1	6	8	13	6	16	8	12	2
糖尿病（含GDM）	-	-	5	12	37	21	27	21	17	16	7
喘息	-	-	1	11	12	12	3	11	7	2	1
慢性腎炎	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ITP	-	-	-	2	3	2	2	2	-	1	-
自己免疫疾患	-	-	1	2	-	-	1	1	-	1	-
循環器疾患	-	-	-	4	5	6	2	1	1	1	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	-	3	-	2	6	3	5	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	1	3	3	-	1	1	1	-	-
消化器疾患（※2）	-	-	1	11	11	15	1	2	-	1	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	10	8	7	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

例年通り各種産科合併症があった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	4	24	16	18	35	90	25	23	19	21	2
妊娠高血圧症候群	3	10	6	15	11	9	10	12	9	4	10
胎児発育不全	-	-	9	9	15	13	10	2	3	4	1
多胎妊娠	-	3	1	6	5	3	7	-	3	2	2
前置胎盤	4	1	1	4	-	-	4	-	4	1	-
産後出血（※3）	1	-	-	3	19	26	3	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	2	1	3	3	15	23	16
常位胎盤早期剥離	5	1	-	2	2	4	1	3	1	-	1
HELLP症候群	-	-	-	1	1	-	-	1	1	1	-
低置胎盤	-	-	-	1	3	1	1	1	1	-	3
血液型不適合	-	-	-	1	11	9	5	5	3	2	-
羊水過多	-	-	1	-	5	4	1	1	2	2	-
羊水過少	-	-	-	-	11	10	-	3	2	3	2
先天異常	-	-	11	2	8	6	4	4	4	6	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／
 ※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

2017年以降子宮頸管縫縮術は施行されず近年施行されているのは産道血腫除去術のみである。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

2022年の輸血治療症例は0であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	-	-	-	9	5	-	4	3	2	0

11 NICU 収容症例数（例）

2022年7月でのNICUの実質的業務終了とともに21人と減少している。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
NICU収容症例数	51	34	42	34	21

（※2018年より新規集計、2018年はうち未熟児が31例）

12 多胎妊娠（例）

本年の双胎妊娠は2例であった。当院ではMM、MD双胎を扱っていないため全例がDD双胎である。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	7	-	3	2	2
うちMD（※1）	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	7	-	3	2	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
 （※2018年より新規集計）

1.3 母体搬送収容数（例）

奈良県周産期搬送システムを通して、毎年一定数の母体搬送を収容している。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	8	4	4	1	2

（※2018年より新規集計）

1.4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

本年の母体搬送症例は妊娠 35 週以降の妊娠高血圧症候群の 2 例のみであった。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	5	4	3	-	-
妊娠高血圧症候群	2	-	-	1	2
前置胎盤	1	-	-	-	-
胎児形態異常	1	-	-	-	-
その他	-	-	1	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期 （※2018年より新規集計）

1.5 先天異常（例、重複あり）

当院常勤の小児外科医が 2022 年 6 月末で奈良県総合医療センターに移動となり先天異常は減少した。

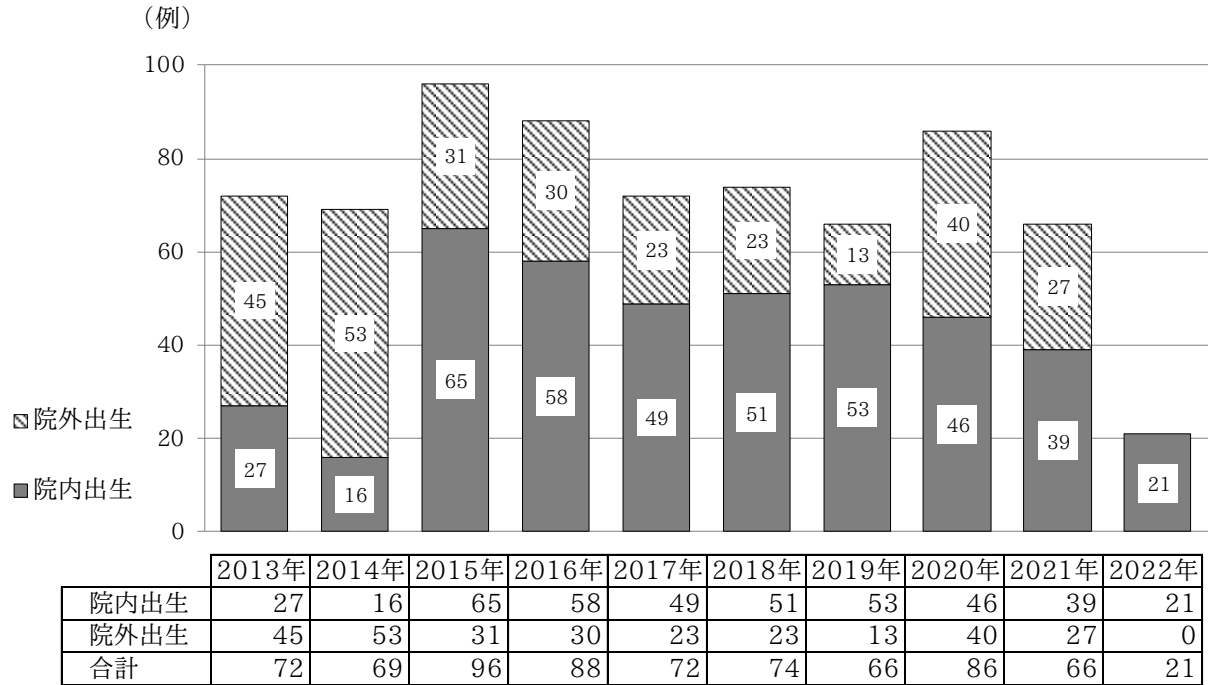
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
心室中隔欠損	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
不整脈	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
水腎症	1	1	2	2	-	-	-	-	-	-
鎖肛	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	2	2	-	-
卵巣嚢腫	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
腹壁破裂	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
脳出血	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
先天性側弯	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
脳室拡大	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
骨系統性疾患	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
尿管管遺残	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
胆道拡張症	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-

（※2018年より新規集計）

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

2022年7月以降、小児外科部門の奈良県総合医療センターへの異動に伴い、当院NICUは新規患者の受け入れを停止、休棟している。



2 主病名 (例)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
消化管疾患	17	16	15	15	6
新生児嘔吐症	-	6	-	2	1
血便	-	2	-	-	-
腸回転異常症疑い	-	2	-	-	1
回腸狭窄症	-	1	-	-	-
哺乳力不良	-	1	1	2	1
横隔膜ヘルニア	-	1	1	-	-
血性嘔吐	-	3	-	-	-
先天性胆道拡張症	-	-	1	-	-
胃軸捻転	-	-	5	1	-
小腸閉鎖	-	-	1	-	-
急性胃粘膜障害	-	-	1	3	-
臍帯ヘルニア	-	-	1	1	-
新生児メレナ	-	-	1	1	-
肥厚性幽門狭窄症	-	-	1	-	-
食道閉鎖	-	-	2	-	1
十二指腸閉鎖症	-	-	-	1	-
十二指腸狭窄症	-	-	-	1	-
胆管拡張症	-	-	-	1	-
脾臓破裂	-	-	-	1	-
膀胱腸裂	-	-	-	1	-
腸回転異常	-	-	-	-	1
鎖肛	-	-	-	-	1
その他	39	33	37	31	14
低出生体重児	-	21	28	17	11
極低出生体重児	-	-	2	1	-
早産児	-	-	3	1	3
新生児黄疸	-	3	-	-	-
多血症	-	1	-	-	-
新生児仮死	-	1	-	-	-
卵巣嚢腫	-	1	-	-	-
低体温症	-	1	-	-	-
過体重児	-	1	-	-	-
頸部リンパ管腫	-	1	-	-	-
下腿浮腫	-	1	-	-	-
水腎症	-	2	1	-	-
口蓋裂	-	-	1	-	-
副腎機能低下症の疑い	-	-	1	-	-
乳児消化管アレルギー	-	-	1	1	-
軟骨低形成の疑い	-	-	-	1	-
tanhatopolic dysplasia	-	-	-	1	-
先天性表皮水疱症の疑い	-	-	-	1	-
甲状腺機能低下症の疑い	-	-	-	1	-
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	2	-
高IgE症候群	-	-	-	1	-
先天性嚢胞状腺腫様形成異常	-	-	-	1	-
喉頭軟化症	-	-	-	1	-
双胎児	-	-	-	2	-

次ページへ続く

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
心・循環器疾患	3	1	5	1	1	脳・神経疾患	-	2	-	-	1
重度肺動脈狭窄	-	1	-	-	-	低酸素性虚血性脳症	-	1	-	-	-
不整脈	-	-	1	-	-	仙尾部奇形腫	-	1	-	-	-
肺動脈閉鎖	-	-	1	-	-	薬物離脱症候群	-	-	-	-	1
動脈管開存	-	-	1	-	-	染色体異常 奇形症候群	-	2	1	2	2
動脈管開存術後	-	-	1	-	-	ダウン症候群疑い	-	1	-	1	-
生理的心雑音	-	-	1	-	-	先天性水頭症	-	1	-	-	-
大動脈縮窄症	-	-	-	1	-	13トリソミー	-	-	1	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	1	Freeman-Sheldon 症候群	-	-	-	1	-
代謝内分泌	-	-	2	-	2	トリーチャーコリンズ症候群	-	-	-	-	1
新生児低血糖	-	-	2	-	2	タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	-	1
呼吸器疾患	12	11	10	13	6	感染症	2	1	6	4	3
新生児一過性多呼吸	-	7	7	5	3	新生児感染症	-	1	-	3	3
呼吸窮迫症候群	-	1	-	-	-	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	5	-	-
胎便吸引症候群	-	3	2	2	1	GBS髄膜炎	-	-	1	-	-
気胸	-	-	1	6	-	新生児ヘルペス感染症	-	-	-	1	-
右横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1						
縦隔気腫	-	-	-	-	1						

3 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
22週未満	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
22週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
25週	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
29週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
32週	2	1	2	-	3	-	-	2	1	-
33週	1	1	4	3	1	6	2	2	2	-
34週	1	1	5	11	9	7	3	6	4	-
35週	2	-	13	5	5	5	4	3	11	4
36週	6	1	15	7	5	8	6	9	2	1
37週以上	57	174	56	62	48	46	50	64	45	30

4 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
750-999g	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-
1,250-1,499g	3	-	3	-	1	3	-	1	-	-
1,500-1,749g	3	2	1	4	5	2	3	1	1	-
1,750-1,999g	-	1	7	4	4	5	3	8	3	2
2,000-2,249g	2	4	11	15	6	7	4	10	11	4
2,250-2,499g	17	4	21	18	20	22	11	20	16	11
2,500g以上	45	167	52	46	36	34	45	46	34	18

5 人工呼吸器管理 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院数 (例)	72	69	96	88	72	74	66	86	66	35
人工呼吸器管理症例数 (例)	17	20	10	16	15	10	8	11	16	5
人工呼吸器管理症例率 (%)	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8	13.5	12.1	12.8	24.2	14.3

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

出生体重	出生週数	疾患名	術式
2,250-2,499g	35週	腸回転異常症	腸回転異常症手術
2,750-2,999g	37週	食道閉鎖症	腹腔鏡下食道閉鎖根治術
3,000-3,249g	38週	鎖肛	会陰式肛門形成術
	39週	トリーチャーコリンズ症候群	気管切開術

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（%）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
24週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
25週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
31週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
32週	-（- / -）	-（- / -）	50.0（1 / 2）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
33週	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
34週	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（4 / 4）	-（- / -）
35週	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（11 / 11）	100.0（4 / 4）
36週	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
37週以上	100.0（46 / 46）	100.0（50 / 50）	98.4（63 / 64）	97.8（44 / 45）	100.0（30 / 30）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（%）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
500g未満	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,000-1,249g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
1,250-1,499g	100.0（3 / 3）	-（- / -）	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
1,500-1,749g	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
1,750-1,999g	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	87.5（7 / 8）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）
2,000-2,249g	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）	100.0（11 / 11）	100.0（4 / 4）
2,250-2,499g	100.0（22 / 22）	100.0（11 / 11）	100.0（20 / 20）	100.0（16 / 16）	100.0（11 / 11）
2,500g以上	100.0（34 / 34）	100.0（45 / 45）	100.0（46 / 46）	97.1（33 / 34）	100.0（18 / 18）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

該当無し

11 死亡例一覧

該当無し

12 新生児搬送収容数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新生児搬送収容数	20	15	20	24	23	10	13	40	27	13

1.3 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
心・循環器疾患	-	1	2	-	-
心雑音	-	1	1	-	-
動脈管術後	-	-	1	-	-
感染症	-	-	1	4	-
新生児感染症	-	-	1	3	-
新生児ヘルペス感染症	-	-	-	1	-
消化管疾患	6	7	18	7	4
新生児嘔吐症	-	2	3	1	-
血性嘔吐	-	-	3	-	-
嘔吐	2	-	5	-	-
哺乳不良	2	-	-	1	-
新生児メレナ	-	-	1	-	-
血便	1	2	1	1	-
小腸狭窄	-	1	-	-	-
鎖肛	-	-	-	-	1
腹壁破裂	-	-	2	-	-
ヒルシウスブルグ病疑い	1	-	-	-	-
腸回転異常症の疑い	-	2	-	-	1
横隔膜ヘルニア	-	-	1	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	1
総胆管拡張症	-	-	1	-	-
脾臓破裂	-	-	-	1	-
急性胃粘膜障害	-	-	-	2	-
胃軸捻転	-	-	-	1	-
腸回転異常症	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	-	1	-	-	-
低酸素性虚血性脳症の気切	-	1	-	-	-

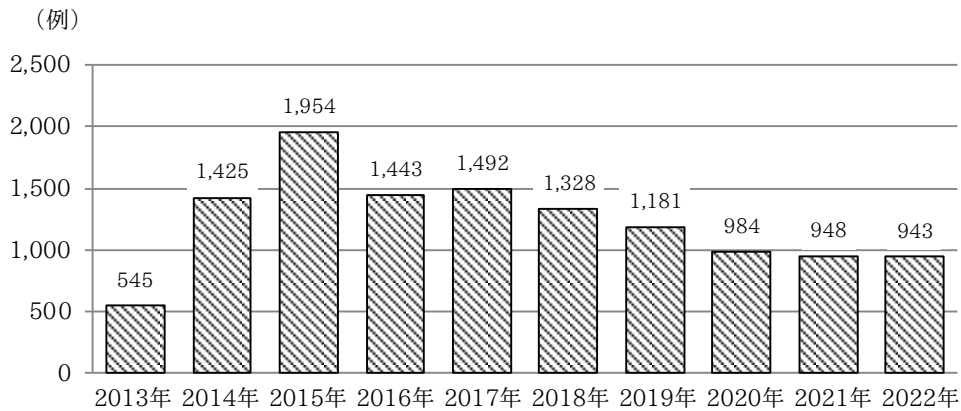
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
染色体異常 奇形症候群	-	-	-	1	2
ダウン症の疑い	-	-	-	1	-
タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	-	1
トリーチャー・コリンズ症候群	-	-	-	-	1
その他	1	4	12	9	4
低出生体重児	1	1	8	5	4
下腿浮腫	-	1	-	-	-
頸部リンパ管腫	-	1	-	-	-
仙尾部奇形腫	-	1	-	-	-
早産児	-	-	1	1	-
GBS髄膜炎	-	-	1	-	-
HBV予防目的	-	-	1	-	-
新生児黄疸	-	-	1	-	-
Freeman-Sheldon 症候群	-	-	-	1	-
乳児消化管アレルギー	-	-	-	1	-
高IgE症候群	-	-	-	1	-
呼吸器疾患	1	-	7	6	3
呼吸障害	-	-	2	-	-
新生児一過性多呼吸	-	-	3	1	1
多呼吸	-	-	1	-	-
新生児気胸	-	-	1	3	-
SpO2低下	1	-	-	-	-
喉頭軟化症	-	-	-	1	-
先天性嚢胞状腺腫様形成異常	-	-	-	1	-
縦隔気腫	-	-	-	-	1
右横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1

第5節 天理よろづ相談所病院

第1項 産科部門診療実績

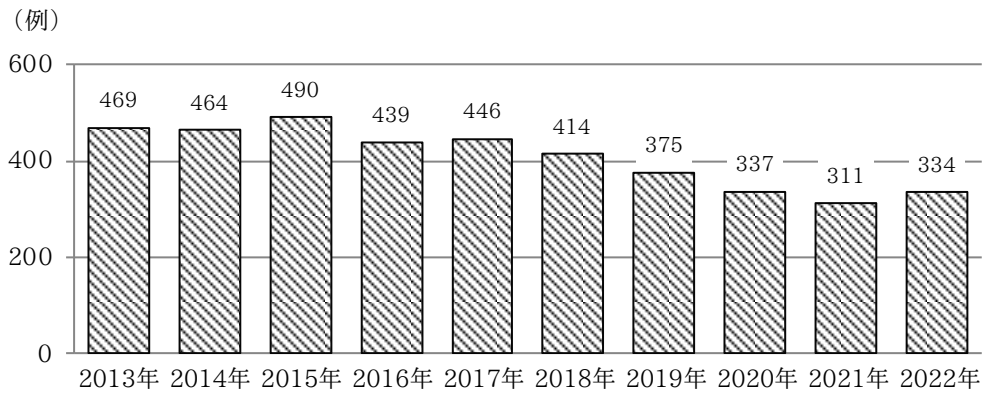
1 入院数

2014年度より産科・婦人科合同で一病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能である。



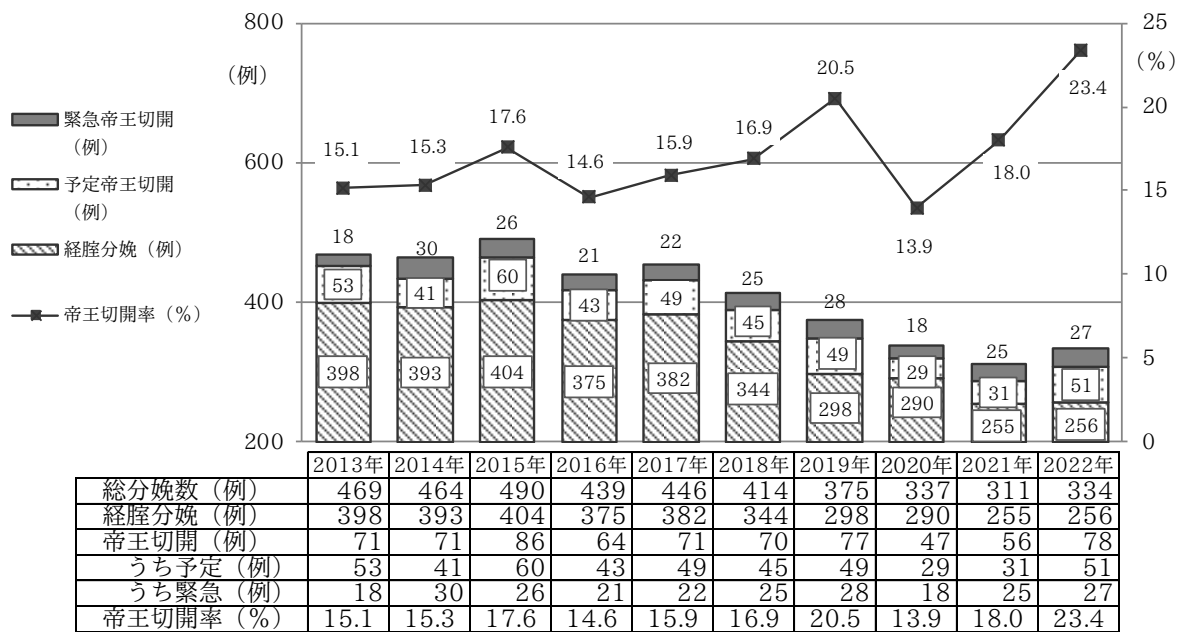
2 分娩数

総分娩数は前年に比べて増加した。



3 分娩様式

帝王切開率は前年に比べて増加した。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

早産域の分娩数は前年に比べて減少した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
34週	1	-	1	3	-	1	-	-	-	-
35週	8	10	7	4	3	3	3	-	3	3
36週	9	15	15	15	14	10	9	6	11	9
37週	38	56	39	29	50	57	44	29	29	33
38週	151	121	138	107	112	107	77	74	75	75
39週	146	137	151	98	140	132	105	103	84	101
40週	92	99	101	135	97	89	113	97	92	81
41週	21	21	28	30	29	15	21	29	19	34

5 出生体重（例、死産児は除く）

2,500g以上の症例が前年に比べて増加した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
1,500-1,999g	7	4	2	6	2	1	1	2	1	2
2,000-2,499g	46	41	46	27	33	31	22	24	22	23
2,500g以上	413	414	433	403	411	384	349	313	289	311

6 出産時年齢（例）

45歳以上は0例であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	337	343	345	306	304	295	254	244	204	237
35-39歳	120	96	118	109	114	92	93	83	84	70
40-44歳	11	25	27	17	26	27	25	10	22	27
45歳以上	1	-	-	1	1	-	3	-	1	-

7 合併症妊娠（例）

糖尿病（含GDM）や喘息が前年に比べて増加した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	20	18	14	15	10	5	12	16	24	15
子宮筋腫（核出術後）	4	3	6	2	2	-	2	4	6	7
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	-	-	10	11	5	7	4	2	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-
子宮形態異常	3	1	-	-	4	-	2	1	2	-
甲状腺機能亢進症	15	13	16	11	4	4	2	3	4	2
甲状腺機能低下症	-	6	-	4	4	1	8	7	7	4
糖尿病（含GDM）	28	27	6	33	30	17	32	29	18	26
喘息	14	13	15	8	4	2	20	27	13	21
慢性腎炎	-	-	-	-	1	-	1	2	1	-
本態性高血圧	1	1	-	-	1	-	2	1	-	2
ITP	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
自己免疫疾患	4	6	6	6	7	1	3	2	4	1
循環器疾患	3	6	2	3	6	3	7	3	4	4
精神科疾患（含てんかん）	10	10	3	7	7	3	8	8	6	3
ウイルス性肝炎（※1）	1	-	-	2	-	-	2	2	-	-
消化器疾患（※2）	-	1	-	-	-	-	2	2	1	-
その他	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産・前期破水などは前年に比べて減少した。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	132	142	152	113	93	41	25	17	19	14
妊娠高血圧症候群	18	18	16	14	7	4	8	11	8	12
胎児発育不全	11	7	10	3	4	6	5	5	3	6
多胎妊娠	6	3	5	3	3	2	1	2	2	3
前置胎盤	1	-	2	1	4	-	-	1	1	-
産後出血（※3）	115	96	-	-	-	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	44	21	94	61	60	72
常位胎盤早期剥離	1	4	4	1	4	-	-	2	2	2
HELLP症候群	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
低置胎盤	3	2	1	2	-	2	2	-	-	2
血液型不適合	-	-	-	-	-	-	2	4	3	1
羊水過多	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-
羊水過少	-	4	4	-	1	1	1	4	2	5
先天異常	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
その他	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	7	6	12	10	2	3	2	3	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	1	-	-	1	-	1	2	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
子宮動脈塞栓術	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1
子宮摘出術	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	3	3	1	2	5	1	1	2	1	3

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	2	1	2	2	3
うちMD（※1）	-	-	-	1	1
うちDD（※2）	2	1	2	1	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	4	-	4

1 3 母体搬送疾患名 (例)

	2020年	2021年	2022年
切迫早産(※1)・前期破水(※2)	1	-	1
妊娠高血圧症候群	2	-	2
胎児機能不全	-	-	1
その他	1	-	-

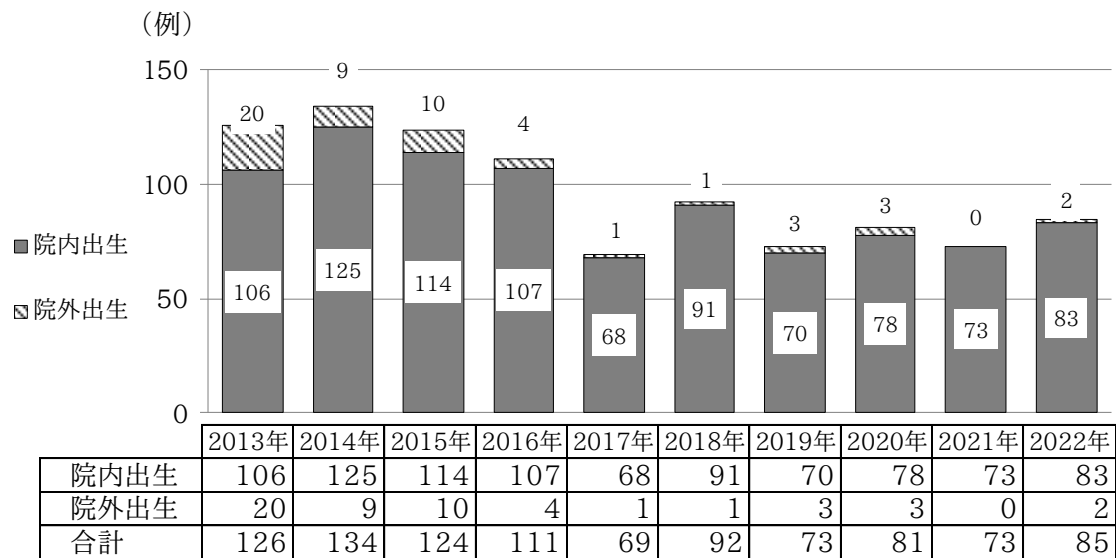
※1 入院のみ/※2 早産期

1 4 先天異常 (例、重複あり)

疾患名	2021年		2022年	
	症例数	胎内診	症例数	胎内診
21トリソミー	-	-	1	-
水腎症	1	1	-	-
大血管転位	1	-	-	-
心内膜欠損症	-	-	1	1

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数



2 主病名 (例)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	44	15	25	27	33
一過性多呼吸	20	10	10	15	25
呼吸障害	19	5	14	10	7
気胸(軽症)	5	5	1	2	-
無呼吸発作	-	-	-	-	1
心・循環器疾患	2	-	-	1	1
先天性心疾患	2	-	-	1	-
房室中隔欠損	-	-	-	-	1
消化管疾患	-	1	1	-	2
腸回転異常	-	1	1	-	-
小腸閉鎖疑い	-	-	-	-	1
嘔吐症	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	3	-	-	-	-
染色体異常 形態異常症候群	3	-	-	-	-
ダウン症候群	2	-	-	-	1
感染症	17	12	15	12	13
MAS(軽症)	3	5	5	3	4
不明感染症	13	7	10	8	9
GBS感染	1	-	-	1	-

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
代謝内分泌	-	10	16	7	31
低血糖症	-	10	16	7	19
黄疸	-	-	-	-	12
その他	29	35	58	53	13
特発性黄疸	17	12	11	17	-
仮死	9	5	10	8	-
高インスリン血症性血糖症	3	-	-	-	-
低体重	-	5	18	15	4
多発小形態異常	-	1	-	-	-
頻脈	-	1	-	-	-
哺乳不良	-	5	7	-	-
無呼吸発作	-	2	8	-	-
血小板減少	-	1	-	-	-
早期産	-	3	4	12	3
先天性水腎症	-	-	-	1	-
口唇口蓋裂	-	-	-	-	1
硬膜下血腫	-	-	-	-	1
徐脈	-	-	-	-	1
先天性表皮水疱症	-	-	-	-	1
母体COVID陽性	-	-	-	-	1
母体COVID濃厚接触	-	-	-	-	1

※2014～2015年は疾患内訳未集計・疾患内訳未集計

3 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
26週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
34週	1	-	1	4	-	1	1	-	-	-
35週	9	11	6	3	4	3	3	-	3	3
36週	5	9	7	11	12	4	10	4	9	5
37週以上	109	114	110	91	52	84	59	77	61	77

4 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500g未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
1,500-1,749g	1	-	-	2	-	-	1	-	-	-
1,750-1,999g	5	4	3	4	2	1	1	3	1	2
2,000-2,249g	8	5	10	7	4	6	6	5	9	2
2,250-2,499g	15	18	16	11	8	13	5	10	4	15
2,500g以上	95	107	95	85	54	72	60	63	58	64
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸のほとんどは経鼻的持続陽圧換気（CPAP）であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院数（例）	126	134	124	111	68	92	73	81	73	85
人工呼吸器管理症例数（例）	-	-	-	4	2	-	6	7	11	12
人工呼吸器管理症例率（％）	-	-	-	4	3	-	8.2	8.2	15.1	14.1

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
34週	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）
35週	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 3 / 3 ）	-（ - / - ）	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 3 / 3 ）
36週	100.0（ 4 / 4 ）	100.0（ 10 / 10 ）	100.0（ 4 / 4 ）	88.9（ 8 / 9 ）	100.0（ 5 / 5 ）
37週以上	98.8（ 83 / 84 ）	100.0（ 59 / 59 ）	100.0（ 77 / 77 ）	100.0（ 61 / 61 ）	100.0（ 77 / 77 ）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）
1,250-1,499g	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）
1,500-1,749g	-（ - / - ）	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）
1,750-1,999g	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 2 / 2 ）
2,000-2,249g	100.0（ 6 / 6 ）	100.0（ 6 / 6 ）	100.0（ 5 / 5 ）	100.0（ 9 / 9 ）	100.0（ 2 / 2 ）
2,250-2,499g	100.0（ 13 / 13 ）	100.0（ 5 / 5 ）	100.0（ 10 / 10 ）	100.0（ 4 / 4 ）	100.0（ 15 / 15 ）
2,500g以上	98.6（ 71 / 72 ）	100.0（ 60 / 60 ）	100.0（ 63 / 63 ）	98.3（ 57 / 58 ）	100.0（ 64 / 64 ）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

11 死亡例一覧

該当なし

12 新生児搬送収容数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新生児搬送収容数	22	9	10	4	1	1	3	3	-	-

1 3 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

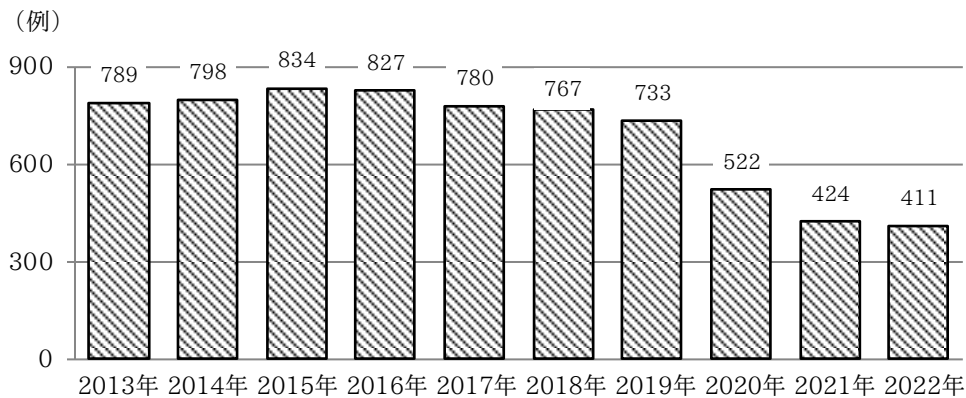
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
呼吸器疾患	-	1	-	-	3	その他	1	-	3	-	1
呼吸障害	-	1	-	-	3	チアノーゼ	1	-	-	-	-
消化管疾患	-	-	-	-	1	低体重、双子	-	-	1	-	-
小腸閉鎖疑い	-	-	-	-	1	口唇口蓋裂	-	-	1	-	-
心・循環器疾患	-	1	-	-	-	自宅出産	-	-	1	-	-
不整脈	-	1	-	-	-	先天性表皮水疱症	-	-	-	-	1

第6節 県内分娩取扱病院

第1項 市立奈良病院

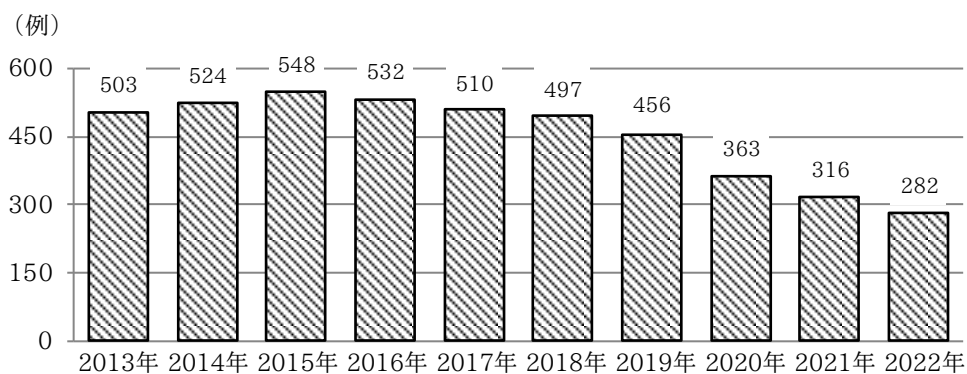
1 入院数

本年も分娩件数が激減したため、入院数も減少した。



2 分娩数

本年も当院では面会謝絶が継続され、立ち合い分娩も禁止されたままとなった。そのため、引き続き分娩件数が激減した。

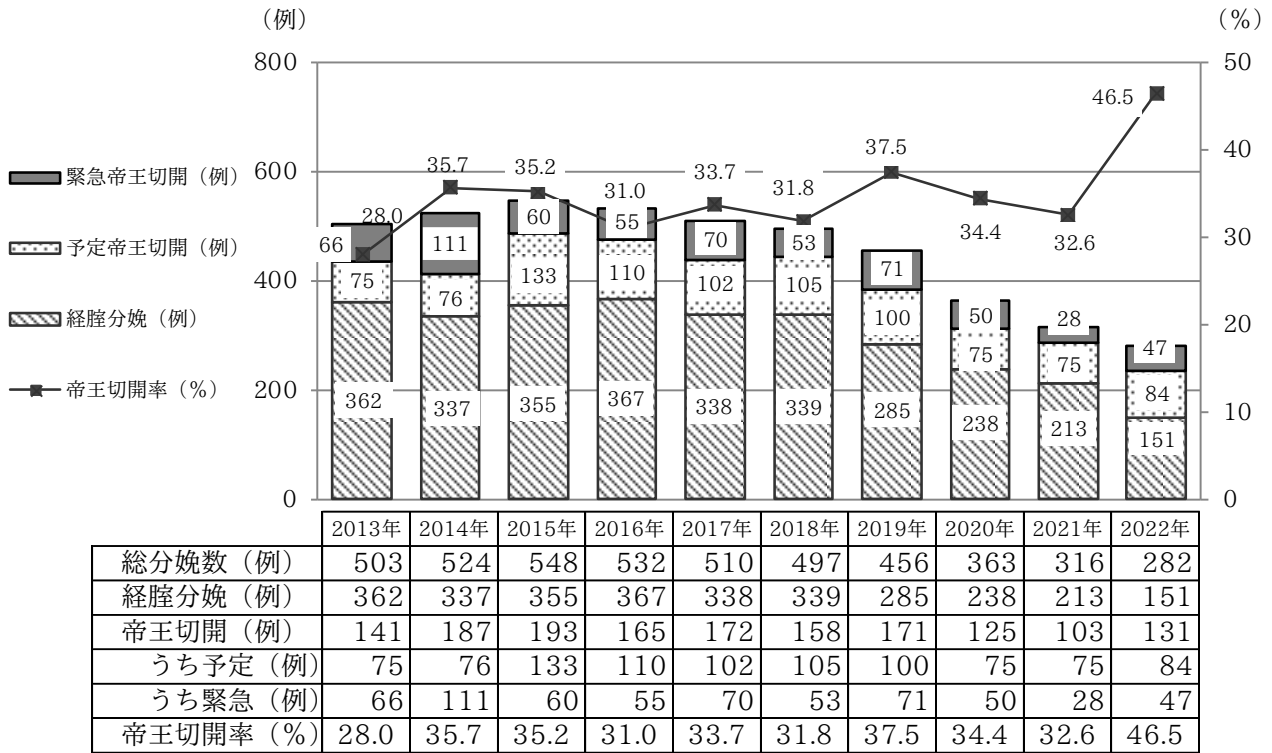


3 分娩様式

妊娠・出産のリスクが高い35歳以上の妊婦の分娩数はほぼ横ばいである一方、比較的リスクが低い35歳未満の妊婦の分娩が毎年、激しく減少しているため、分娩件数は大幅に減少した。

帝王切開数は昨年とあまり変化がない。

帝王切開率に関しては、既述のように35歳以上の妊婦の割合が本年は35.8%と、昨年の32.9%に比べて大幅に増加したことが影響したと考えている。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

不明は、救急隊が搬送してきた未受診妊婦の飛び込み分娩。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35週	1	3	-	-	3	-	-	1	-	-
36週	13	25	17	24	18	21	18	14	11	13
37週	46	52	70	65	63	62	52	30	49	60
38週	140	132	157	145	146	129	150	114	101	84
39週	132	142	137	158	124	137	115	106	76	64
40週	128	113	136	115	125	99	100	70	67	52
41週	40	39	30	24	28	42	23	30	12	14
42週以上	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

5 出生体重（例、死産児は除く）

1,500-1,999g は、DD 双胎の第 2 子で 37 週、1,936g であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,500-1,999g	-	1	2	1	1	1	2	-	-	1
2,000-2,499g	35	26	34	32	35	33	31	28	22	22
2,500g以上	466	485	511	497	472	456	425	337	294	264

6 出産時年齢（例）

35 歳未満の妊婦の分娩が昨年は 212 件であり、大幅に減少したことが、当院の分娩減少の大きな要因と考えられる。35 歳以上の妊婦は計 101 名であり、昨年の 104 名とほとんど変わっていない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	391	383	394	395	373	368	321	263	212	181
35-39歳	89	108	121	112	107	100	116	76	79	80
40-44歳	21	23	33	25	28	27	19	22	24	20
45歳以上	-	1	-	-	2	2	-	2	1	1

7 合併症妊娠（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	7	25	20	23	26	14	25	14	9	17
子宮筋腫（核出術後）	-	5	2	-	-	-	1	1	5	8
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	9	11	11	6	11	8	8	3	7
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	1	8	-	2	3	10	10	8	13
子宮形態異常	-	-	2	4	1	5	3	-	1	-
甲状腺機能亢進症	2	6	5	4	3	5	5	5	5	-
甲状腺機能低下症	2	8	7	9	10	8	13	8	3	6
糖尿病（含GDM）	5	10	19	16	30	17	17	13	15	13
喘息	1	12	11	23	9	15	14	18	13	5
慢性腎炎	-	-	1	6	-	2	1	1	2	-
本態性高血圧	-	2	3	1	3	1	1	-	1	2
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	2	1	1	1	2
循環器疾患	-	1	2	3	2	2	6	1	3	4
精神科疾患（含てんかん）	1	7	6	2	11	8	6	5	6	7
ウイルス性肝炎（※1）	2	3	1	3	-	1	1	1	3	1
消化器疾患（※2）	-	1	3	4	-	5	7	2	3	1
その他	-	-	-	4	-	-	40	18	7	20

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

子癇は、未受診妊婦の飛び込み分娩での産褥子癇。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	73	63	61	205	201	272	231	109	44	44
妊娠高血圧症候群	13	28	16	9	9	18	27	12	13	9
胎児発育不全	28	18	19	24	35	28	27	11	2	17
多胎妊娠	-	-	1	3	2	2	2	2	1	7
前置胎盤	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-
産後出血（※3）	26	14	12	-	16	34	17	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	-	10	10	33	14	13	49	38
常位胎盤早期剥離	-	2	1	-	2	1	5	2	2	1
HELLP症候群	-	4	-	-	1	-	3	-	1	-

次ページへ続く

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
低置胎盤	-	1	3	1	-	-	1	2	2	1
血液型不適合	-	7	6	11	4	3	3	1	2	1
羊水過多	-	-	1	2	-	1	-	1	-	-
羊水過少	-	5	6	6	1	3	8	4	4	2
先天異常	-	1	1	6	3	1	-	-	-	-
その他	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術では、妊娠7週と11週でいずれも腫瘍茎捻転のため緊急手術となった。

子宮動脈塞栓術は、いずれも妊娠初期のRPOCに行った。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	2	8	6	14	5	5	4	8	3	7
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	1	-	1	-	-	2	2	2	1	2
産道血腫除去術	1	1	2	-	3	-	-	2	1	-
子宮動脈塞栓術	-	2	1	-	1	2	5	1	1	2
子宮摘出術	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	2	2	3	1	3	2	4	2	1	-

11 多胎妊娠（例）

1例は18週で子宮内胎児死亡となった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	-	-	1	3	2	2	2	2	1	7
うちMD（※1）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	-	1	3	2	2	2	2	1	7

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 母体搬送収容数（例）

有床診療所より奈良県周産期医療システムによらない母体搬送となった症例である。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

13 母体搬送疾患名（例、重複あり）

37週で搬送、母体および胎児適応でただちに緊急帝王切開実施した。

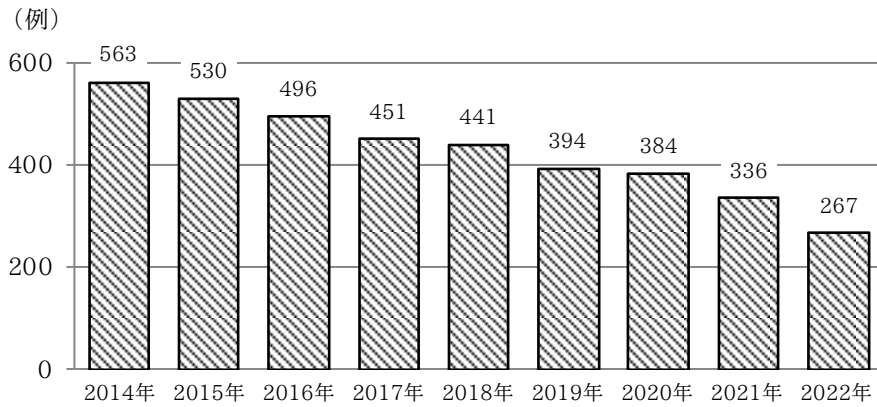
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
妊娠高血圧症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

1 4 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	2	-
心室中隔欠損	2	-	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	-	-	1	1
ファロー四徴症	-	-	-	-	1	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	-	-	-	-	1	-
Ebstein奇形	-	-	-	-	1	-
CHARGE症候群	-	-	-	-	1	-
二分脊椎、キアリ奇形	-	-	-	-	1	1

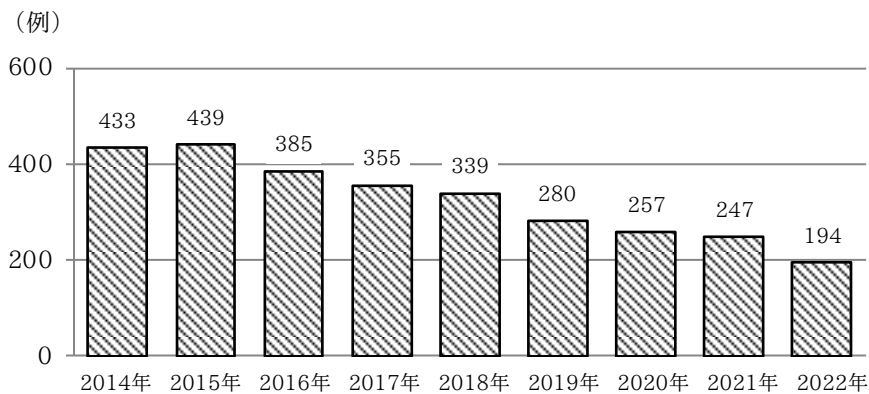
第2項 大和郡山病院

1 入院数



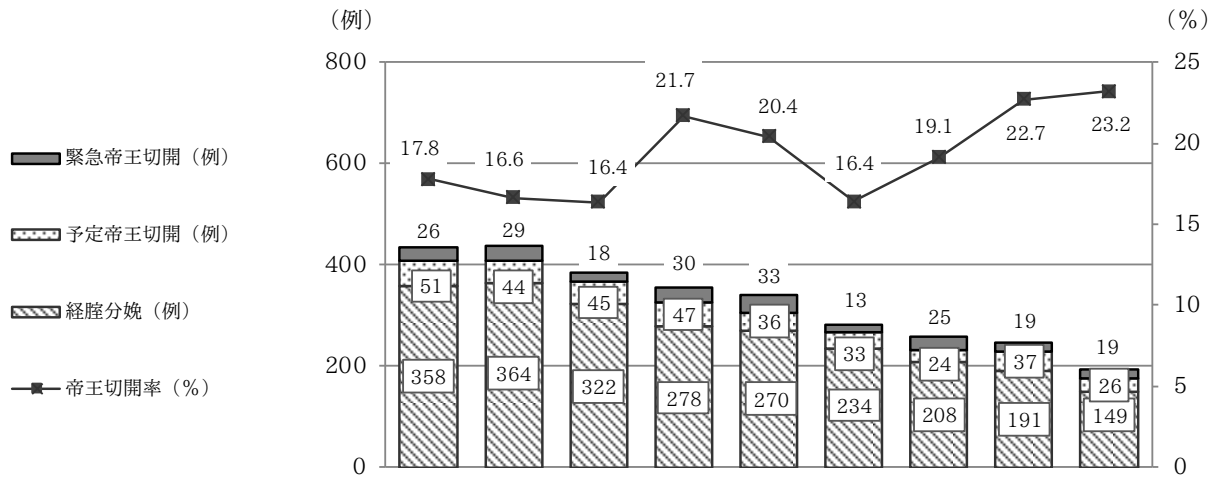
2 分娩数

入院数、分娩数共に去年より減少した。



3 分娩様式

帝王切開率はほぼ横ばいであった。



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総分娩数 (例)	433	439	385	355	339	280	257	247	194
経膣分娩 (例)	358	364	322	278	270	234	208	191	149
帝王切開 (例)	77	73	63	77	69	46	49	56	45
うち予定 (例)	51	44	45	47	36	33	24	37	26
うち緊急 (例)	26	29	18	30	33	13	25	19	19
帝王切開率 (%)	17.8	16.6	16.4	21.7	20.4	16.4	19.1	22.7	23.2

4 分娩週数 (例、死産児は除く)

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35週	1	3	2	3	3	1	1	2	-
36週	7	3	6	9	5	4	6	5	5
37週	45	44	42	33	38	25	28	20	20
38週	102	88	81	90	73	65	56	62	39
39週	120	131	125	102	113	82	71	63	61
40週	131	117	97	99	79	83	78	79	54
41週	29	39	28	16	27	17	17	15	14
42週以上	-	-	1	-	-	-	-	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,500-1,999g	2	1	1	1	1	-	1	1	-
2,000-2,499g	26	22	27	21	20	8	14	11	16
2,500g以上	407	402	356	330	317	269	242	234	177

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	326	308	292	241	249	202	189	174	138
35-39歳	96	98	74	94	79	64	53	59	48
40-44歳	18	23	19	17	10	14	14	14	8
45歳以上	-	-	-	-	1	-	1	-	-

7 合併症妊娠（例）

ほぼ例年と変化なかった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	3	2	2	4	12	2	2	2	1
子宮筋腫（核出術後）	2	6	-	1	3	-	2	1	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	-	-	-	-	2	-	-	3
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1	-	3	2	-
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1	3	2	3	3
糖尿病（含GDM）	3	1	2	2	3	4	7	9	9
喘息	4	2	3	2	5	1	2	1	1
本態性高血圧	1	1	-	-	-	-	-	1	1
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	1	-	-
循環器疾患	-	-	1	-	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	2	2	1	-	1	1	-
ウイルス性肝炎（※1）	-	1	-	-	-	-	-	1	1
消化器疾患（※2）	1	3	4	4	10	1	3	2	-

※1 HA,HB,HCなど／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	104	99	107	93	76	38	23	21	11
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15	17	8	11	9
胎児発育不全	5	3	4	6	3	3	2	3	-
多胎妊娠	2	2	2	2	1	1	1	-	-
前置胎盤	-	1	-	-	-	1	-	2	-
産後出血（※3）	3	-	2	-	6	1	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	70	56	45	10	23	12	11
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-	-	1	-	1
HELLP症候群	-	1	-	5	1	1	6	-	-
低置胎盤	-	1	1	-	1	1	-	2	4
血液型不適合	5	1	2	1	1	-	-	-	-
羊水過少	-	-	-	-	-	4	1	4	-
先天異常	-	5	5	2	2	-	-	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1	-	2	1	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	-	-	1	4	2	1	-	3
産道血腫除去術	2	1	-	-	1	-	-	-	2

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	1	-	2	-	3	2	2	1	2

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	2	1	-	-	-
うちMD（※1）	1	-	-	-	-
うちDD（※2）	1	1	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎（※2018年より新規集計）

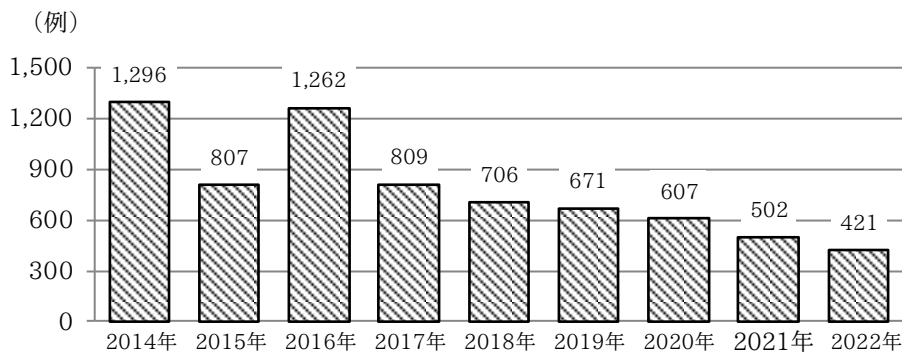
1 2 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-
水腎症	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1
心房中隔欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
福耳	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

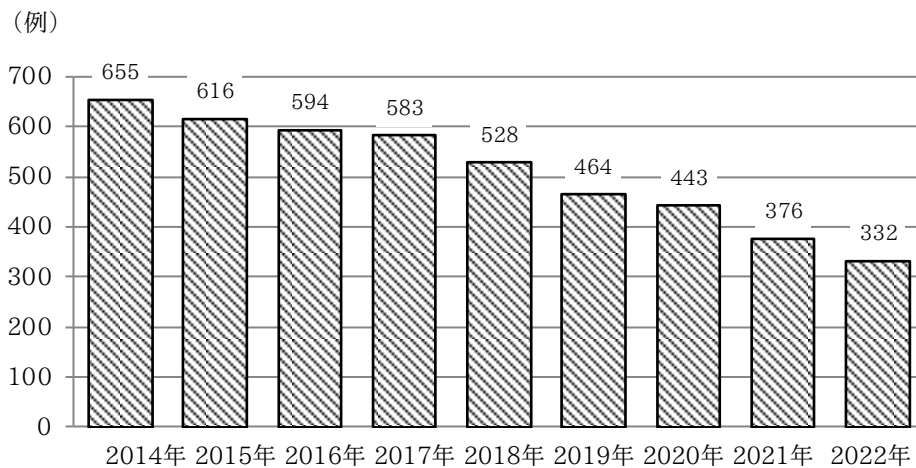
（※2018年より新規集計）

第3項 大和高田市立病院

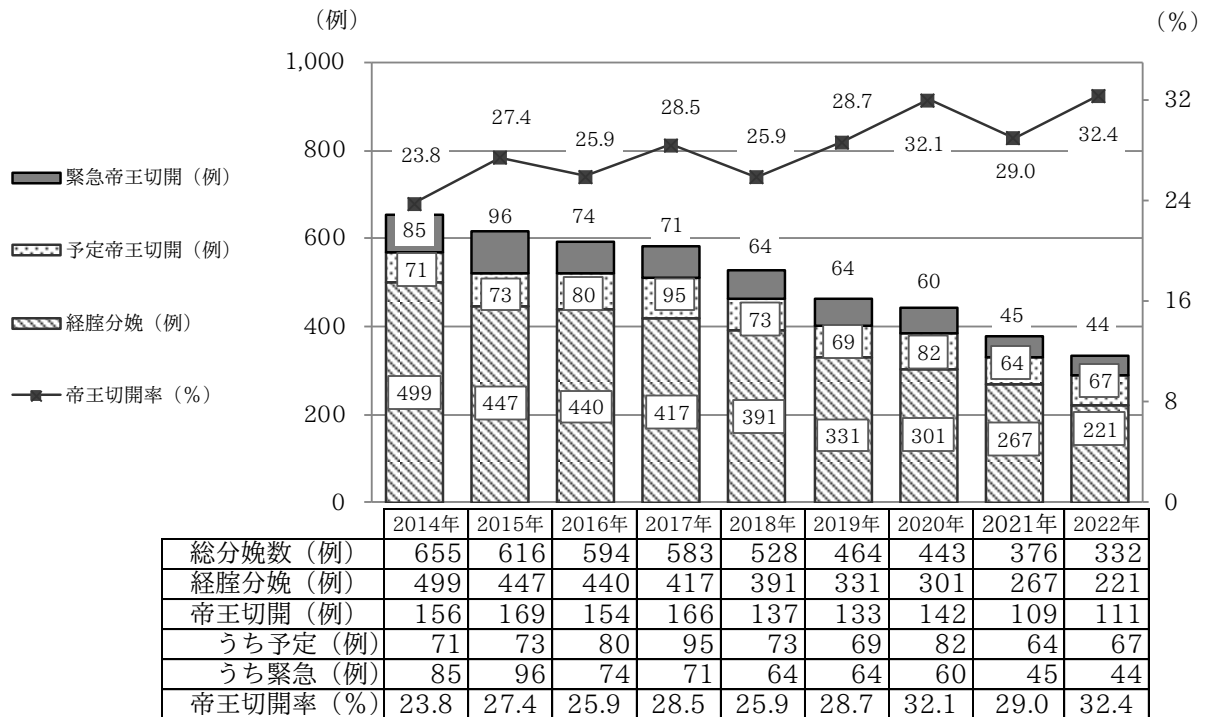
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
28週	-	-	-	-	-	-	1	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	1	-	-
30週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	1	-	-	-
35週	3	2	5	3	-	2	3	2	7
36週	23	14	17	15	21	22	12	9	15
37週	63	61	56	70	53	45	59	57	48
38週	166	138	134	136	115	115	100	84	79
39週	205	172	180	174	156	135	120	102	84
40週	172	193	167	155	143	115	126	108	83
41週	22	30	35	30	40	29	21	13	16
42週以上	-	-	-	-	-	-	-	1	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
500-999g	-	-	-	-	-	-	1	-	-
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	1	-	-
1,500-1,999g	1	-	1	-	1	1	2	4	4
2,000-2,499g	65	51	34	40	35	33	26	26	26
2,500g以上	588	563	559	545	492	430	413	346	302

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	507	475	471	430	400	362	344	267	249
35-39歳	120	116	99	120	103	84	78	87	67
40-44歳	27	24	22	33	25	18	20	21	14
45歳以上	-	1	2	-	-	-	1	1	2

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	5	4	8	7	-	1	1	2	-
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	-	1	3	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	8	3	5	6	36	3	3	5
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	4	2	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2	1	2	1	1
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-	-	1	1	-
糖尿病（含GDM）	18	9	10	7	10	14	9	7	5
喘息	4	2	3	3	-	-	1	2	-
慢性腎炎	2	-	-	2	-	1	-	2	2
本態性高血圧	-	-	-	-	-	17	2	-	2
ITP	-	-	-	-	-	1	1	-	-
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	3	6	-	-
循環器疾患	-	2	2	2	5	-	7	2	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	2	1	1	2	-	-	1
ウイルス性肝炎（※1）	4	2	2	-	-	-	-	-	1
消化器疾患（※2）	3	1	4	5	4	40	3	5	7

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	41	65	76	103	98	12	6	7	46
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19	21	22	31	16
胎児発育不全	10	8	1	1	3	8	5	1	-
多胎妊娠	4	4	2	2	1	-	-	1	5
前置胎盤	2	1	1	2	-	1	-	-	-
産後出血（※3）	40	29	8	10	10	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	3	2	4	7	1
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	3	1	111	97	57
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4	1	2	1	1
HELLP症候群	-	-	-	-	-	-	-	1	-
低置胎盤	2	2	-	-	-	1	-	2	1
血液型不適合	4	-	4	3	1	-	-	-	-
羊水過多	-	-	-	1	1	8	-	-	-
羊水過少	4	1	-	-	-	1	3	1	5
先天異常	1	1	2	-	1	1	2	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	2	2	1	55	1	3	-
産道血腫除去術	-	2	-	2	-	-	1	1	4
子宮摘出術	-	-	-	-	-	1	-	2	-

1 0 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	2	4	1	5	2	6	1	1	4

1 1 多胎妊娠 (例)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	1	-	-	1	5
うちMD (※1)	-	-	-	-	1
うちDD (※2)	1	-	-	1	4

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎
(※2018年より新規集計)

1 2 母体搬送収容数 (例)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	-	1	1	-	-

(※2018年より新規集計)

1 3 母体搬送疾患名 (例、重複あり)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産 (※1)・前期破水 (※2)	-	1	1	-	-
妊娠高血圧症候群	-	-	-	-	-
多胎	-	-	-	-	-

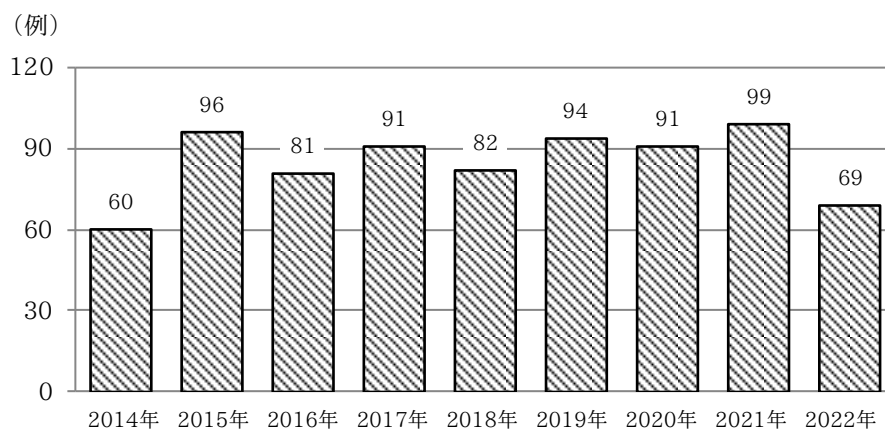
1 4 先天異常 (例、重複あり)

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
脳室拡大	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	1	2	1	2	1	-	-
水腎症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
血管腫	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-

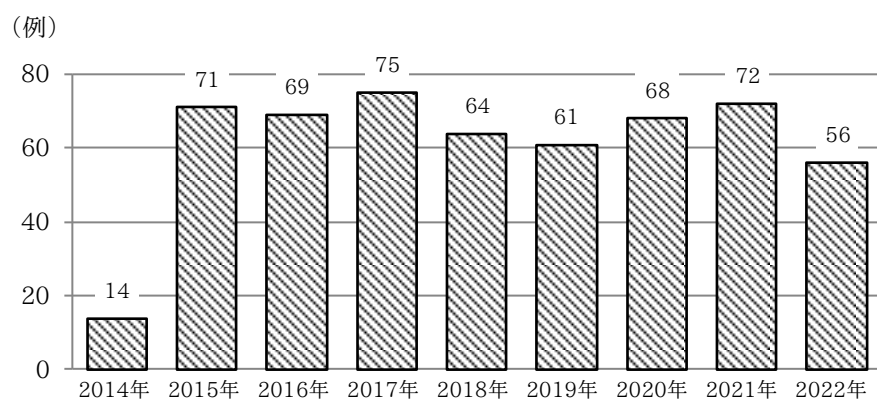
(※2018年より新規集計)

第4項 高井病院

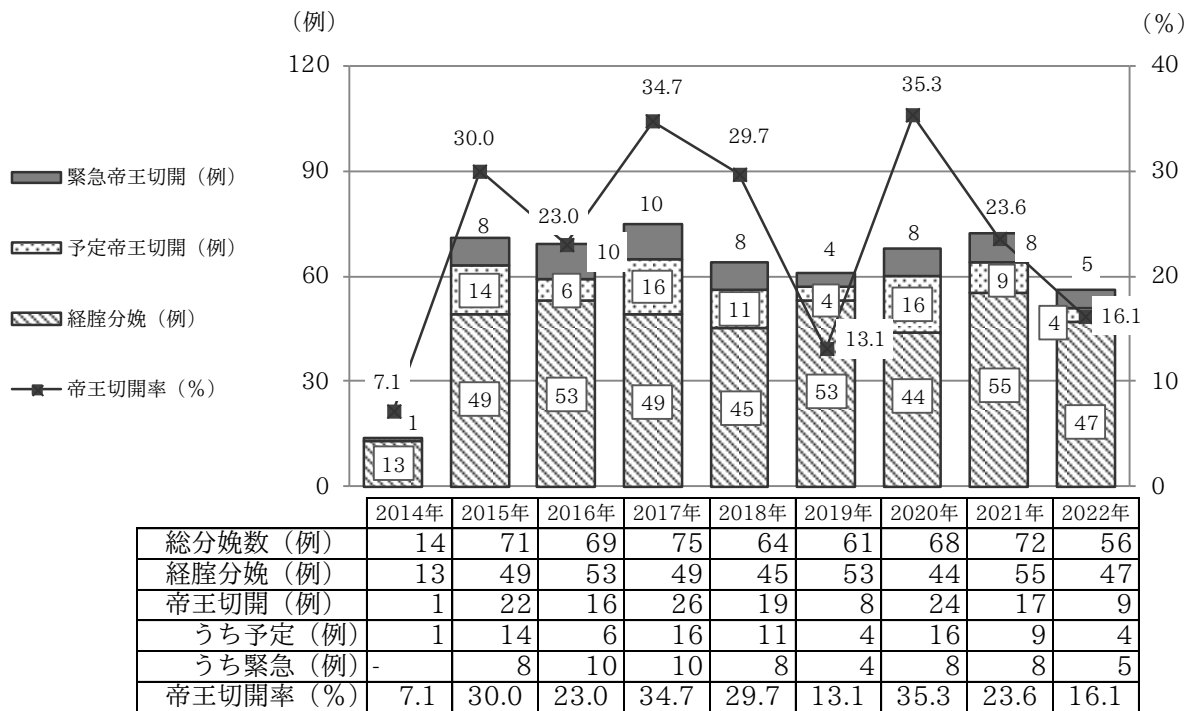
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
31週	-	-	-	1	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2	-	-	-	-
36週	-	2	2	1	-	2	-	2	2
37週	1	12	5	11	12	4	6	12	6
38週	7	13	12	14	22	15	23	17	8
39週	1	16	19	24	9	15	19	16	22
40週	3	21	20	18	14	18	13	20	11
41週	2	5	11	4	5	7	7	5	7

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1	-	-
2,000-2,499g	-	7	4	7	5	3	-	7	1
2,500g以上	14	63	65	67	59	58	67	65	55

6 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	10	59	55	59	50	52	52	54	42
35-39歳	3	11	12	14	12	8	13	18	13
40-44歳	1	1	2	2	2	1	3	-	1

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	-	-	-	3	-	2	1	-	1
子宮筋腫（核出術後）	-	-	-	-	1	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	2	1	2	-	-	-	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	-	2	-	-	-	-
子宮形態異常	-	-	1	-	-	1	-	1	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-	-	-	-
糖尿病（含GDM）	-	-	-	-	-	2	2	2	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	1	-	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	-	7	10	9	5	11	4	6	6
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2	-	-	1	-
胎児発育不全	-	1	1	2	-	-	1	2	-
多胎妊娠	-	-	-	1	-	-	-	-	-
産後出血（※3）	-	-	-	5	-	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	-	11	10	8	7
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-	-	-	-	-
低置胎盤	-	-	1	-	-	1	-	-	-
血液型不適合	-	-	-	2	1	1	1	-	-
先天異常	-	-	-	2	-	1	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	-	-	-	-	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	-	-	-	-	1	-	-	-	-

11 多胎妊娠（例）

該当なし

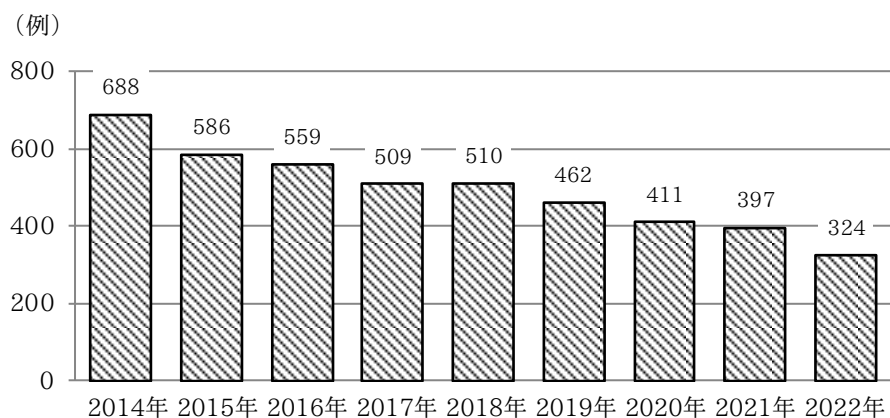
12 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-

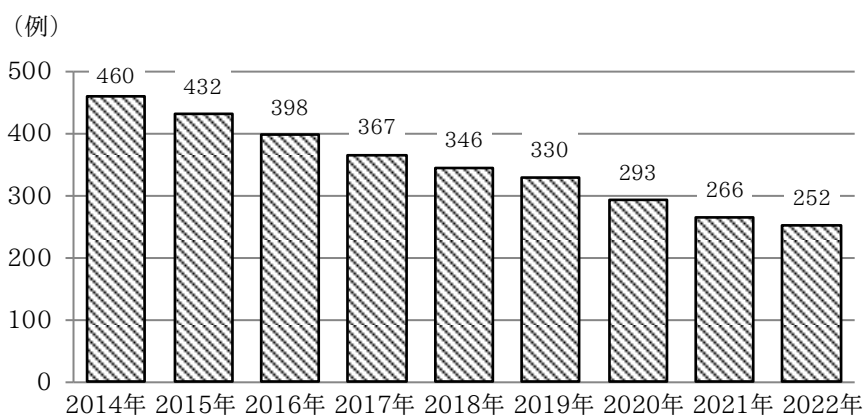
（※2018年より新規集計）

第5項 桜井病院

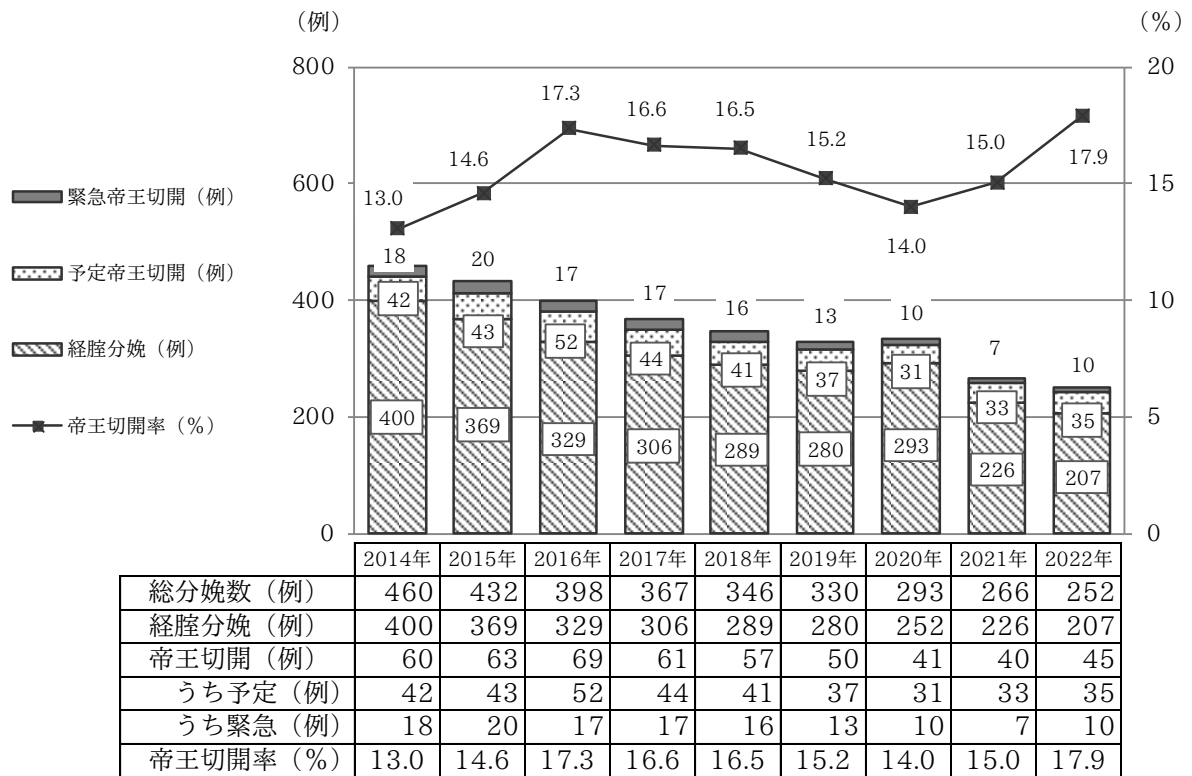
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

41 週台の出生数が半分以下に減少した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
34週	-	1	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3	4	2	2	6
37週	68	62	80	63	54	60	50	37	36
38週	70	74	65	66	46	65	40	51	51
39週	123	145	129	113	116	83	77	67	79
40週	144	102	88	89	95	87	91	74	65
41週	48	42	30	31	31	31	33	34	15
42週以上	-	1	-	-	1	-	-	1	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,500-1,999g	-	-	-	-	-	1	-	-	-
2,000-2,499g	17	17	23	13	19	28	17	21	20
2,500g以上	443	415	373	354	327	301	276	245	232

6 出産時年齢（例）

出産の高年齢化が進んでいる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	360	344	304	278	266	256	240	210	183
35-39歳	87	78	83	78	66	61	49	47	51
40-44歳	13	10	9	11	14	13	4	9	18
45歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	9	10	4	5	6	9	9	11	16
子宮筋腫（核出術後）	-	1	-	2	2	2	-	-	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	3	6	10	1	8	4	5	4	5
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	2	1	-	1	1	-	-	4
子宮形態異常	-	-	-	-	-	1	1	-	2
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2	5	4	1	2
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16	6	10	9	7
糖尿病（含GDM）	3	3	4	5	4	5	8	4	2
喘息	2	-	1	2	3	8	4	4	6
本態性高血圧	-	-	-	-	1	-	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	-	1	-
循環器疾患	-	-	-	-	3	1	5	2	2
精神科疾患（含てんかん）	1	-	4	2	1	-	3	1	4
ウイルス性肝炎（※1）	2	-	-	1	-	1	-	-	1
消化器疾患（※2）	1	-	2	1	1	1	-	1	1
その他	12	-	4	5	-	10	9	4	5

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産での入院が27例、前期破水早産例が3例であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	7	3	5	4	1	67	57	63	30
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8	3	4	1	3
胎児発育不全	6	-	-	-	-	1	2	-	1
産後出血（※3）	8	11	4	4	1	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	4	4	6	-	4	6	8
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1	-	1	-	-
低置胎盤	1	4	1	2	1	-	2	7	1
血液型不適合	-	6	3	2	3	3	5	2	3
先天異常	5	8	7	2	8	4	7	1	4
その他	-	-	-	1	6	3	4	-	-

※1 入院のみ、2014年～2018年は未集計／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

その他は、卵管結紮術。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2	1	-	-	2
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	10	-	-	2	-	-	-	1
その他	-	-	-	-	2	1	-	-	1

10 輸血治療症例（例）

該当なし

11 多胎妊娠（例）

該当なし

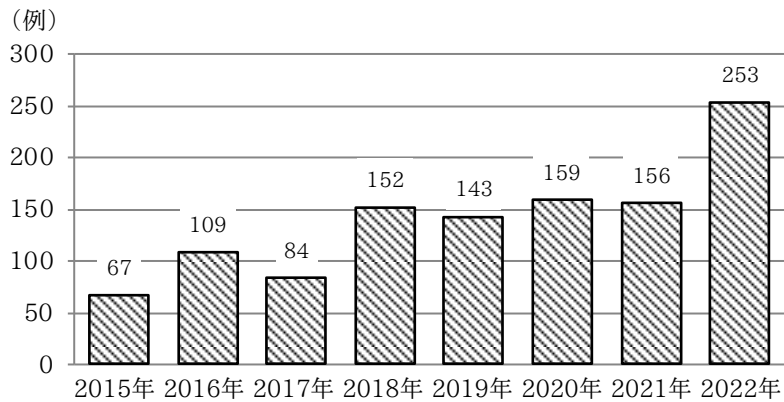
12 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	1	-	2	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	2	2	1	1	-	-	-	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	8	8	2	2	1	2	1	1	-	2
内臓錯位	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
肺動狭窄	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
肛門ポリープ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫										1
心筋肥大									1	1

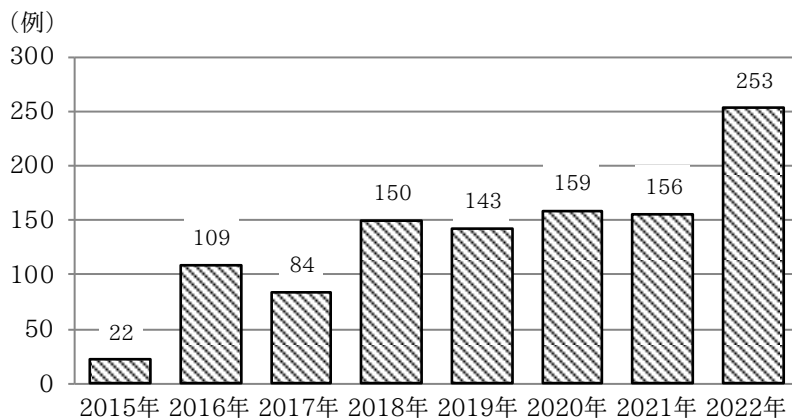
（※2018年より新規集計）

第6項 生駒市立病院

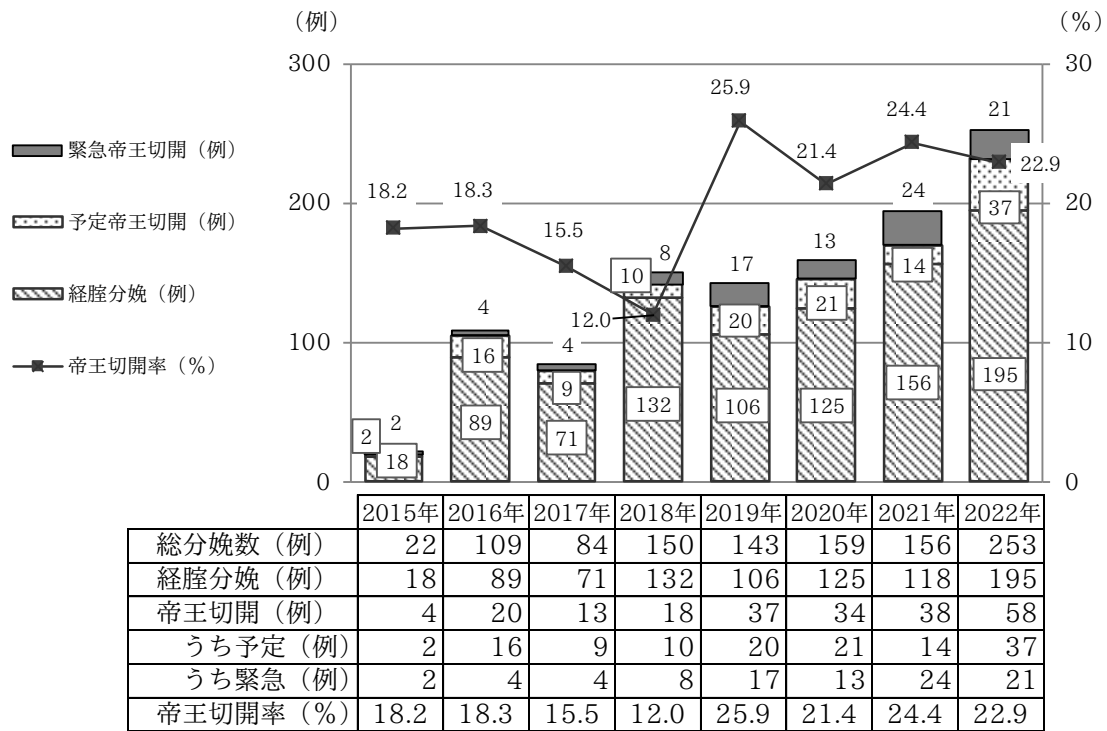
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35週	-	-	-	1	-	-	1	1
36週	-	1	-	11	1	1	-	4
37週	-	6	8	8	14	12	7	13
38週	9	31	14	30	28	32	39	69
39週	8	28	30	42	35	52	40	75
40週	4	33	26	47	55	52	53	74
41週	1	10	6	11	9	11	15	15
42週以上	-	-	-	-	1	-	1	1

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1	-
2,000-2,499g	1	3	2	13	12	8	6	8
2,500g以上	21	106	81	136	131	152	149	244

6 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	15	67	50	101	131	113	103	182
35-39歳	4	35	23	39	10	35	39	52
40-44歳	3	7	10	10	2	11	13	19
45歳以上	-	-	1	-	-	-	1	-

7 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	-	1	-	7	2	4	1	2
子宮筋腫（核出術後）	-	2	2	2	4	1	3	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	-	3	3	1
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	1	-	9	2	-
子宮形態異常	-	-	-	-	-	-	1	-
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	-	-	-	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	1	5	3	-
糖尿病（含GDM）	-	1	3	4	7	12	6	14
喘息	-	-	3	2	2	3	5	2
本態性高血圧	-	-	-	1	-	-	-	1
自己免疫疾患	-	-	-	1	-	-	1	-
循環器疾患	-	-	-	-	-	-	2	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	1	-	-	2	1	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	-	1	-	-	-
消化器疾患（※2）	-	-	2	-	-	1	-	-
その他	-	-	2	1	1	1	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	3	2	2	-	-	1	-
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4	19	7	3
胎児発育不全	-	-	1	-	-	1	-	-
多胎妊娠	-	-	-	-	1	1	-	-
前置胎盤	1	1	1	-	2	2	1	-
産後出血（※3）	-	1	-	-	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	1	7	5	5	5
低置胎盤	-	-	-	1	-	-	-	1
血液型不適合	-	-	-	1	-	2	-	-
羊水過多	-	7	-	-	-	-	-	-
羊水過少	-	8	-	-	-	-	-	-
先天異常	-	1	-	-	1	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1	1	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	6	10	11	-	-	-	-
子宮摘出術	7	3	11	6	-	-	-	-
その他	-	-	31	32	2	-	1	-

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	-	-	2	-	3	1	2	0

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	-	1	1	-	-
うちMD（※1）	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	1	1	-	-
うち不明	-	-	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

1 2 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年	2022年
母体搬送収容数	1	-	-

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年
切迫早産（入院のみ）・ 前期破水（早産期）	1	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期

1 4 先天異常（例、重複あり）

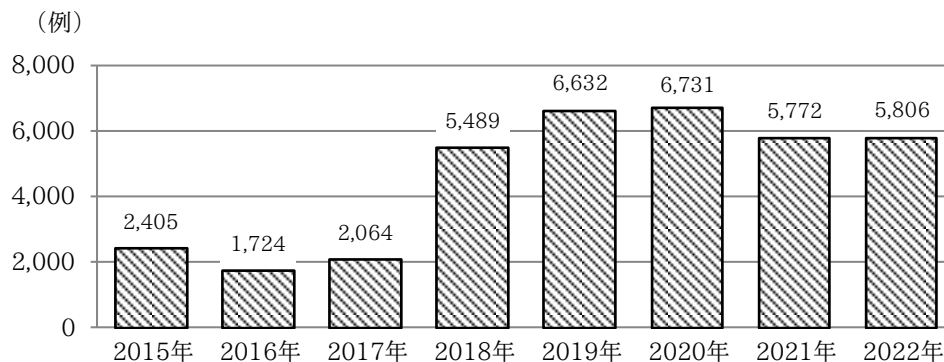
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

（※2018年より新規集計）

第7節 県内分娩取扱診療所

1 入院数

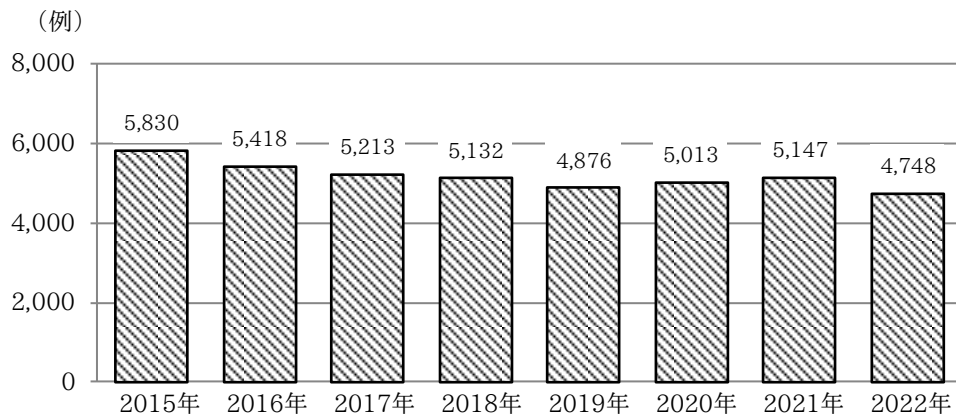
入院数は5,806例で減少傾向である。



（※2015年～2017年 一部医療機関未回答）

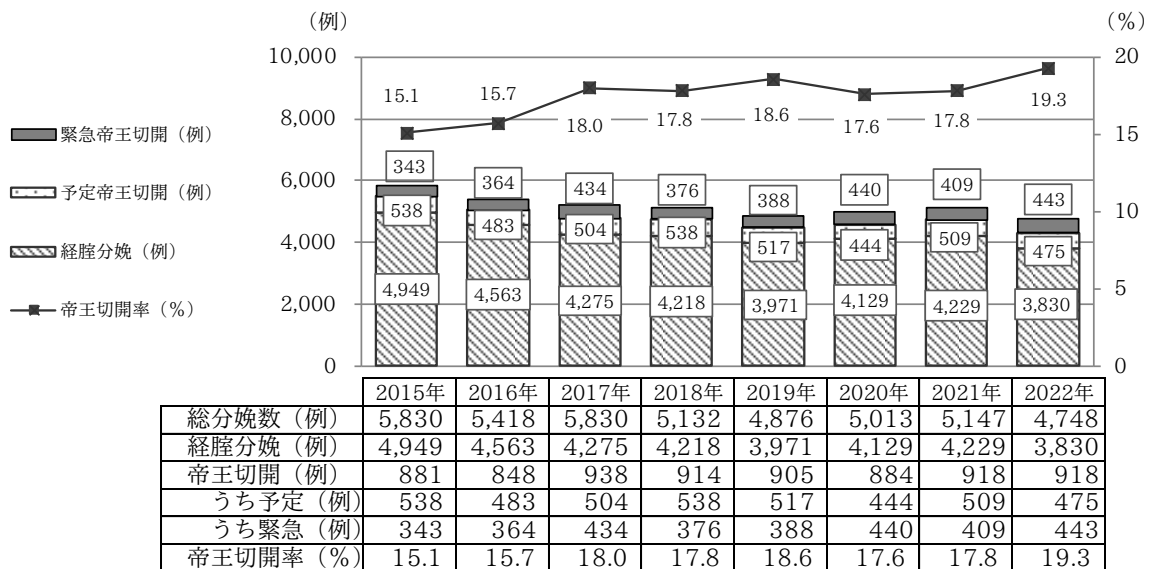
2 分娩数

分娩数は2015年から漸減している。



3 分娩様式

分娩様式の比率はやや帝王切開率が上昇した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

突発的な早産分娩の症例を認めるが、概ね正常産症例が多数を占め、内訳は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
27週	-	-	-	-	1	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	1	-	-
30週	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	1	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	1	1	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	2
34週	-	-	-	3	1	1	-	1

次ページへ続く

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35週未満	3	3	-	-	-	-	-	-
35週	15	14	12	11	9	16	26	12
36週	98	89	94	91	94	77	124	86
37週	458	438	414	401	323	412	407	395
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101	1,127	1,146	1,050
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508	1,620	1,634	1,475
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398	1,348	1,350	1,313
41週	536	489	447	513	405	404	426	401
42週以上	31	12	26	24	15	8	14	6

(※2017年までは、35週未満はまとめて集計)

5 出生体重（例、死産児は除く）

出生体重は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,000-1,499g	-	-	-	-	1	-	-	-
1,500-1,999g	10	2	6	8	5	5	7	5
2,000-2,499g	280	244	247	250	198	225	226	187
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645	4,785	4,896	4,549

6 出産時年齢（例）

出産時年齢は例年と同様である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633	3,853	3,839	3,637
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016	1,003	1,118	918
40-44歳	180	207	226	210	223	159	189	189
45歳以上	2	-	6	1	4	4	1	4

(※2020年は死産6例を含む)

7 合併症妊娠（例）

甲状腺機能低下症、糖尿病（含むGDM）、喘息の合併症例がそれぞれ増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	58	103	47	73	92	38	90	70
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10	17	6	6	14
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19	21	18	15	14	23
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10	10	9	12	8	11
子宮形態異常	3	7	1	3	3	2	-	9
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15	17	16	13
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29	41	31	61
糖尿病（含むGDM）	9	20	40	18	18	22	15	32
喘息	27	28	46	56	41	52	48	82
慢性腎炎	-	-	1	-	-	-	-	-
本態性高血圧	3	-	-	-	6	-	-	-
ITP	-	2	1	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	1	-	4	3	2	1	-	1
循環器疾患	3	-	1	4	2	-	-	3
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10	12	7	13	17
ウイルス性肝炎（※1）	13	9	5	4	2	4	1	2
消化器疾患（※2）	8	2	6	1	3	11	4	8
その他	1	1	7	45	16	9	5	3

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

弛緩出血が例年より増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	268	455	146	242	229	243	188	190
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111	100	69	83
胎児発育不全	41	38	82	30	58	34	12	19
多胎妊娠	2	4	1	3	3	2	4	1
前置胎盤	3	2	-	1	-	3	2	1
産後出血（※3）	168	165	75	117	55	-	-	-
子癇	-	-	-	1	-	-	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	-	150	107	159	148	203
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10	8	6	9
HELLP症候群	3	1	1	1	3	2	1	3
低置胎盤	5	17	15	3	8	8	4	4
血液型不適合	18	14	13	9	8	8	7	11
羊水過多	11	33	24	15	16	11	17	9
羊水過少	26	47	38	53	51	34	37	37
先天異常	24	6	7	36	17	13	15	-
その他	8	13	2	1	2	4	3	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術が例年より多かった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20	28	11	11	6
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	7	2	1	-	-	1	3	11
産道血腫除去術	11	6	6	5	7	11	5	4
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-	-	-	-	-
その他	5	1	-	-	12	-	-	18

10 輸血治療症例（例）

輸血症例数は前年と同程度である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
輸血治療症例数	14	8	8	7	10	2	3	3

11 多胎妊娠（例）

多胎妊娠は例年通りごく少数の症例を認めるのみであった。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
双胎	3	3	2	4	1
うちMD（※1）	2	-	1	2	1
うちDD（※2）	1	3	1	2	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

1.2 先天異常（例、重複あり）

先天異常症例は例年と同様である。

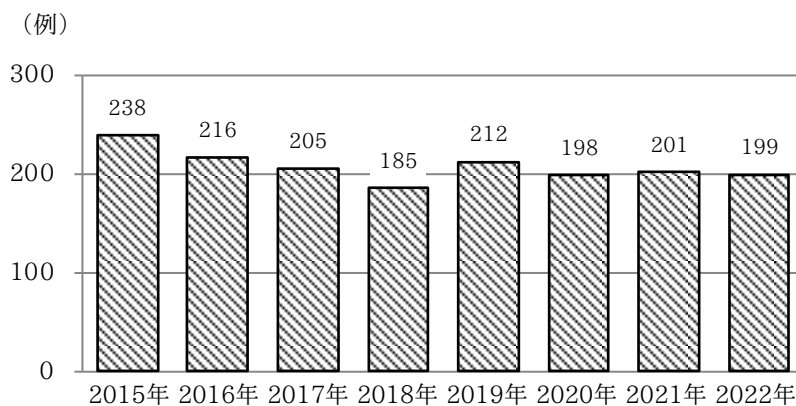
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
21トリソミー	4	1	1	1	-	-	2	-	-	-
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	6	-	1	-	1	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	6	-	5	-	15	5	3	-	8	4
胎児水腫	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-
尿道下裂	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-
口唇裂・口蓋裂	2	-	4	1	2	-	4	3	3	1
不整脈	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
胸腹水	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
無脳症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
水腎症	-	-	-	-	7	7	10	10	10	10
大血管転位	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
鎖肛	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
卵巣嚢腫	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
尿道閉鎖	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
大動脈離断症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
血管腫	13	-	1	-	-	-	-	-	2	-
肺動脈狭窄症	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

（※2018年より新規集計）

第8節 県内分娩取扱助産所

1 入院数

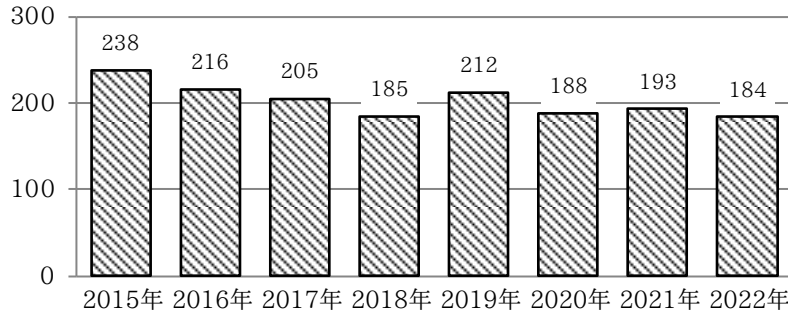
本年の奈良県内分娩取扱助産所は7か所となっている。215例が助産所にて周産期管理を開始しその内16例が妊娠中に転院となった。COVID-19による転院は1例が奈良県立医科大学附属病院に39週2日で搬送となり、翌日自然陣痛発来し緊急帝王切開となっている。



2 分娩数

助産所分娩の割合を奈良県における分娩数から見ると前年が2.25%、本年が2.26%となっている。入院後転院となっている症例を見ると前期破水から微弱陣痛となり嘱託医に転院となっている症例が5例、次いで胎児機能不全の疑いが3例となっている。

(例)



3 分娩週数 (例、死産児は除く)

妊娠中の転院症例は予定日超過が最も多く40週で2例、41週で3例の計5例が嘱託医にて分娩となっているが、41週を過ぎての助産所分娩が13例あり症例毎に医療介入が適切に行われている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
37週	14	-	12	9	18	7	8	4
38週	35	10	44	36	37	39	30	30
39週	94	43	68	66	73	74	74	76
40週	87	69	62	68	62	60	73	61
41週	7	84	19	6	22	8	8	13
42週以上	1	10	-	-	-	-	-	-

4 出生体重 (例、死産児は除く)

2,499g以下の詳細は2,300g台が2例、残り4例は2,400g台である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
2,000-2,499g	1	3	2	1	7	-	5	6
2,500g以上	237	213	203	184	205	188	188	178

5 出産時年齢 (例)

前年は40歳以上の症例が7.8%で高値であったが、本年は3.2%となっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
35歳未満	183	141	146	133	126	133	114	120
35-39歳	48	67	50	44	73	51	64	58
40-44歳	7	9	9	8	12	4	15	6
45歳以上	-	-	-	-	1	-	-	-

6 合併症妊娠（例）

2020年以降、子宮筋腫以外の合併症妊娠は無い。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮筋腫	3	1	5	-	1	4	2	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	1	-	-	-

7 産科合併症（例、重複あり）

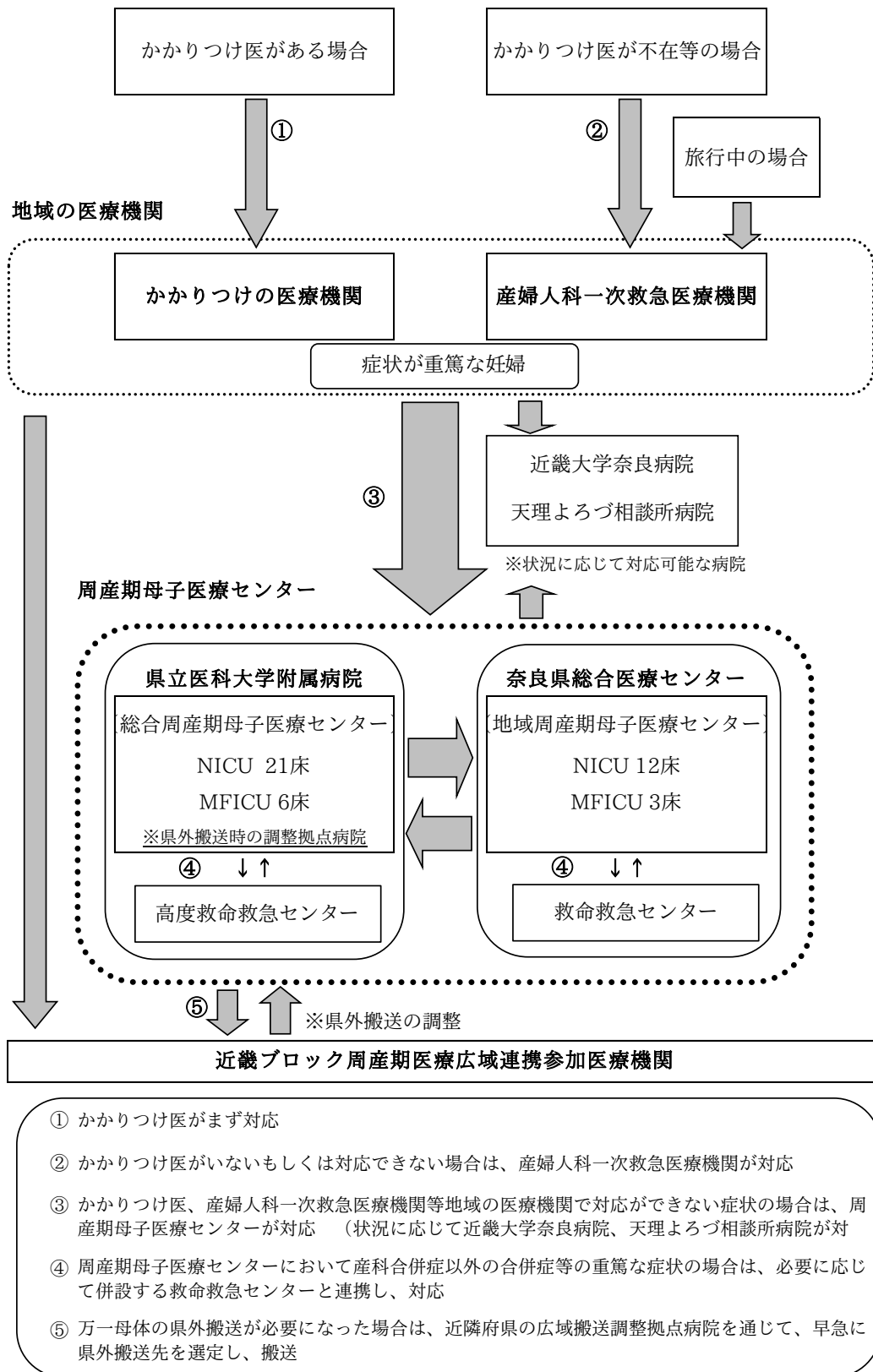
弛緩出血1例については出血量1,764gで囑託医および後方支援病院との連携が行われた。その他1例は、後腹膜血腫である。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6	4	-	-	-
胎内胎児発育制限	2	-	-	1	-	-	-	-
産後出血（※1）	-	-	1	3	12	-	-	-
弛緩出血（※2）	-	-	-	-	-	2	4	1
常位胎盤早期剥離	-	-	-	-	-	1	-	-
先天異常	-	-	-	2	1	-	-	-
その他	-	1	-	1	1	1	-	1

※1 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※2 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

2. 母体搬送連携イメージ

令和5年10月現在



3. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

(地域別、五十音順)
(令和5年10月現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市元町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂	香芝市真美ヶ丘1丁目13-27 0745-71-5201

4. 産婦人科救急対応マニュアル(抜粋)

1. 一次救急編

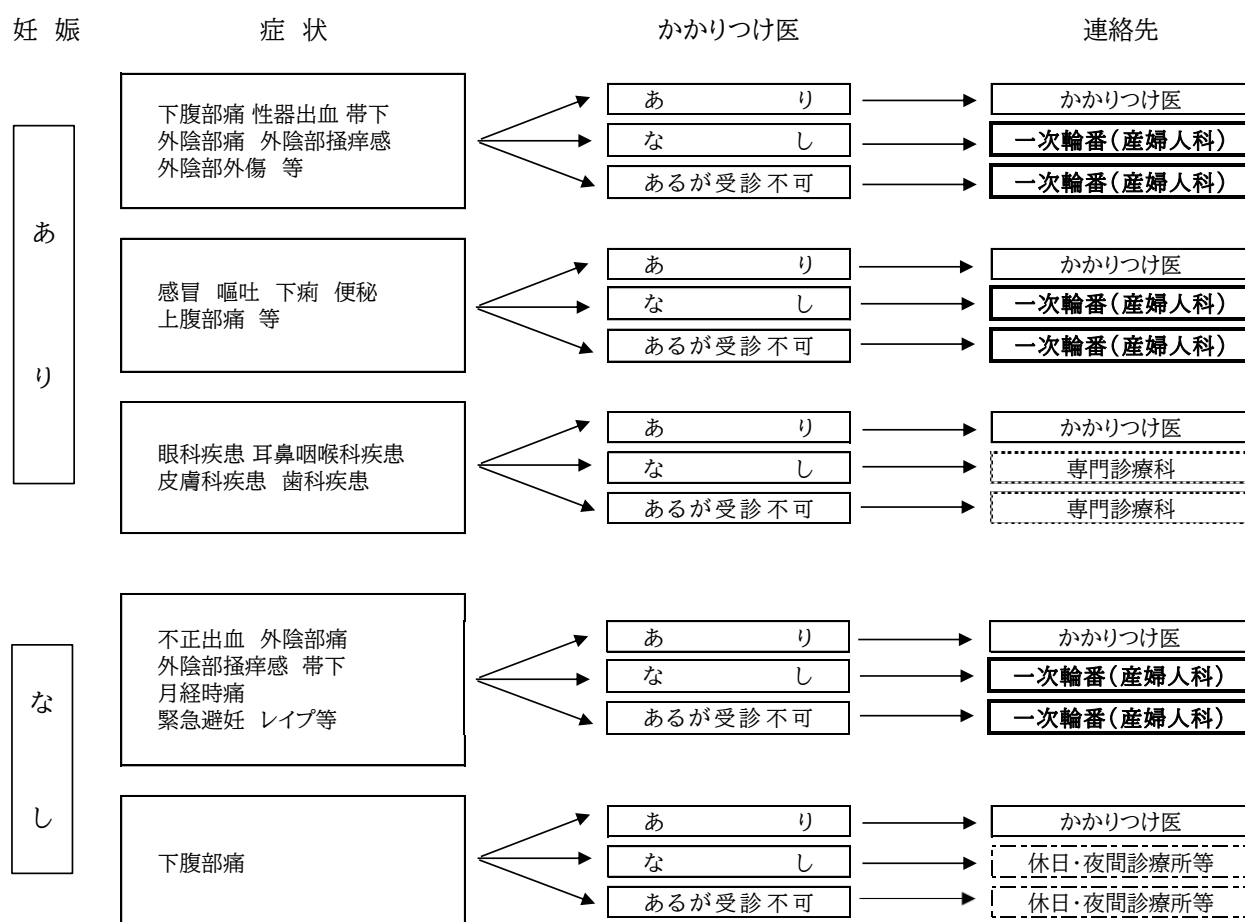
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



5. 県内分娩取扱医療機関一覧

令和5年10月現在

医療圏	医療機関名		住所	
奈良	1	奈良県総合医療センター	630-8581	奈良市七条西町2丁目897番5号
	2	市立奈良病院	630-8305	奈良市東紀寺町1-50-1
東和	3	高井病院	632-0006	天理市蔵之庄町470-8
	4	天理よろづ相談所病院	632-0015	天理市三島町200番地
	5	桜井病院	633-0091	桜井市桜井973
西和	6	大和郡山病院	639-1013	大和郡山市朝日町1-62
	7	近畿大学奈良病院	630-0227	生駒市乙田町1248番1
	8	生駒市立病院	630-0213	生駒市東生駒1-6-2
中和	9	奈良県立医科大学附属病院	634-0813	橿原市四条町840
	10	大和高田市立病院	635-0094	大和高田市磯野北町1番1号
病院 計		10		
奈良	11	富雄産婦人科	631-0074	奈良市三松4丁目878番1
	12	平野医院	631-0821	奈良市西大寺東町2-1-52
	13	岡村産婦人科	630-8325	奈良市西木辻町30番地
	14	中野産婦人科	630-8014	奈良市四条大路1丁目3-57
東和	15	赤崎クリニック	633-0053	桜井市大字谷111
西和	16	杉江産婦人科	630-0257	生駒市元町1丁目11-3
	17	林産婦人科登美ヶ丘	630-0115	生駒市鹿畑町55番1
	18	なんのレディースクリニック	636-0123	生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
中和	19	酒本産婦人科	634-0804	橿原市内膳町4-4-26
	20	さくらレディースクリニック	634-0803	橿原市上品寺町528
	21	林産婦人科五位堂	639-0223	香芝市真美ヶ丘1-13-27
南和	22	後藤医院	637-0041	五條市本町1-7-23
診療所 計		12		
奈良	23	青柳助産院	630-8036	奈良市五条畑1丁目17番10-1号
	24	石井助産院	630-8107	奈良市奈保町5番21号
東和	25	芽愛助産院	632-0094	天理市前裁町274-1
	26	ふじ助産院	632-0063	天理市西長柄町388-2
西和	27	カヌシャガマ高杉助産院	630-0136	生駒市白庭台3丁目15番10
	28	助産院カンガルーホーム	636-0904	生駒郡平群町三里139-9
中和	29	心友助産院	635-0823	北葛城郡広陵町三吉赤部260-3
助産所 計		7		

(県地域医療連携課調べ)

6. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和5年4月1日現在

区 分	役 職	氏 名
総合周産期 母子医療センター	奈良県立医科大学附属病院 産婦人科学講座教授	木村 文則
	奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター病院教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県総合医療センター 周産期母子医療センター長兼産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県総合医療センター 新生児集中治療部長	箕輪 秀樹
	奈良県総合医療センター 小児外科部長	米倉 竹夫
病 院	近畿大学奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	住友 理浩
	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
助産師会	奈良県助産師会	西川 佐稲子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良市消防局救急課長)	山中 英人
奈 良 県	福祉医療部 医療政策局長	筒井 昭彦

7. 令和4年周産期医療年報編集会議委員名簿

所 属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学講座講師	赤坂 珠理晃
	産婦人科学講座助教	牧野 佑子
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門助教	釜本 智之
奈良県総合医療センター	産婦人科参事	喜多 恒和
	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科教授	大井 豪一
	小児科診療講師	南方 俊祐
天理よろづ相談所病院	産婦人科副部長	富田 裕之
市立奈良病院	産婦人科部長	原田 直哉
大和郡山病院	産婦人科医長	水田 裕久
大和高田市立病院	産婦人科部長	堀江 清繁
高井病院	産婦人科師長	河本 由子
桜井病院	産婦人科副師長	森岡 由紀
生駒市立病院	総長	今村 正敏
診療所代表	奈良県産婦人科医学会長 赤崎クリニック院長	赤崎 正佳
助産所代表	奈良県助産師会 心友助産院長	西川 佐稲子

8. 令和4年周産期医療年報編集ワーキンググループ委員名簿

所属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学講座助教	牧野 佑子
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門助教	釜本 智之
奈良県総合医療センター	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	産婦人科副部長	吉元 千陽
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘

9. 奈良県周産期医療協議会設置要綱

(目的)

第1条 奈良県における周産期医療の現状と課題を踏まえ、県民が安心して子どもを産み育てることのできる周産期医療の推進に向け、具体的な対応策を協議・検討するため、奈良県周産期医療協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1)周産期医療体制に係る調査分析に関する事項
- (2)周産期医療体制整備計画に関する事項
- (3)母体及び新生児の搬送の受入れ(県域を越えた搬送及び受入れを含む。)に関する事項
- (4)総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターに関する事項
- (5)周産期医療情報センター(周産期救急情報システムを含む。)に関する事項
- (6)搬送の調整に関する事項
- (7)地域周産期医療関連施設等の周産期医療関係者に対する研修に関する事項
- (8)その他周産期医療体制の整備に関し必要な事項

(組織)

第3条 協議会の委員は、次に掲げる者の管理者その他関係者により組織する。

- (1)学識経験者
- (2)周産期医療機関
- (3)周産期医療関係団体
- (4)周産期医療関係行政機関
- (5)その他適当と認められる者

(会長)

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員から特に申し出のあった場合は、代理出席を妨げない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、奈良県福祉医療部医療政策局地域医療連携課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年 7月26日から施行する。

この要綱は、平成26年 4月 1日から施行する。

この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する

奈良県周産期医療年報

令和5年（2023年）12月

発行 奈良県周産期医療協議会